岩手県文化財調査報告書第六十四集

岩手県「歴史の道」調査報告

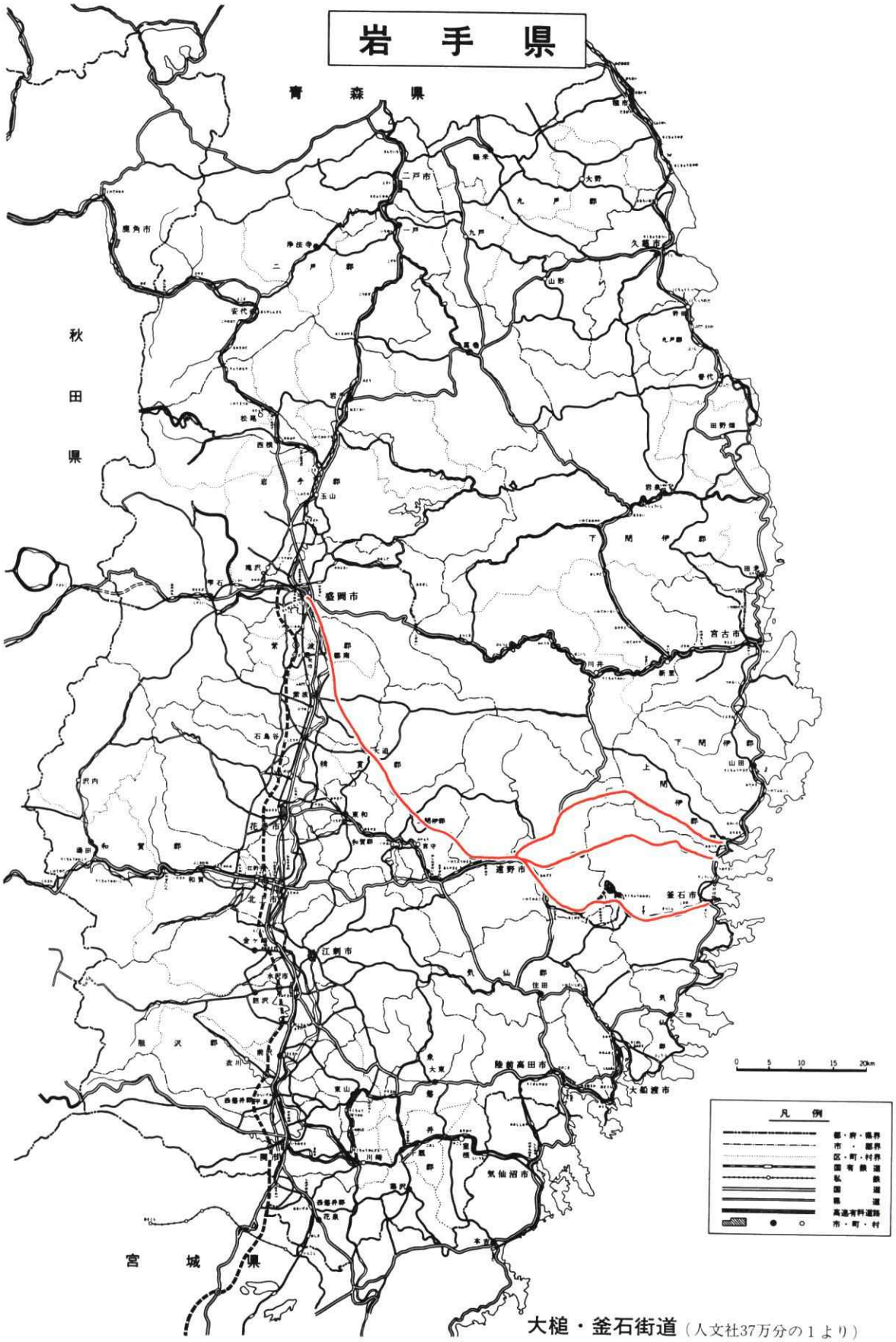
大槌・釜石街道

岩手県教育委員会

岩手県「歴史の道」調査報告

大槌・釜石街道

（遠野街道・大槌街道
釜石街道・笛吹峠道・その他）



大槌・釜石街道（人文社37万分の１より）

序

地域開発に伴なう交通網の整備は、現代社会の進歩発展から生ずる必然的な要請であり、県内においても日々近代的な道路の建設が各所で行われ、私達の生活は一段と便利になり多大の恩恵を受けております。

しかしその反面、本県歴史を知る上にきわめて重要な意味をもつ道・河川などの交通路に残る並木道・道標・一里塚などの交通遺跡が次第にその姿を消しております。このような現状を重視し、本県では昭和五十三年度から国庫補助を受け「歴史の道」を調査してまいりました。

本報告書は、本年度に調査しました五街道のうち、盛岡城下の穀町惣門前で奥州道中から分岐して、大迫・達曽部を通って横田（遠野）にいたり、さらに分岐して一方は横田から界木峠を越えて大槌にいたる、他方は仙人峠を越えて釜石にいたる「大槌・釜石街道」について、街道の現状と文化財の保存状況など、その周囲の環境を含めて総合的に調査し、その成果を集成したものであります。

本書が、今後の交通関係遺跡の保護及び歴史の道研究の一助となれば幸いであります。

なお、調査に御協力いただきました調査員各位並びに関係市町村教育委員会をはじめ、諸資料を提供してくださった方々に対し、衷心より感謝申し上げます。

昭和五十六年三月

岩手県教育委員会

教育長　新　里　　盈

例　言

一、本書は歴史の道「大槌・釜石街道」に関する報告書である。

二、本調査は主として次にあげるものを収集し、調査を実施した。

(一)　収集したもの

古文書、地誌類、紀行文、古絵図類や明治時代の実測図など。

(二)　調査した事項

(ア)　道及びこれに沿う地域に残る遺跡の分布状況と保存の実態。

(イ)　江戸時代の国界・藩界及び郡名。

三、本調査の調査員・補助員は左記のとおりである。

主任専門調査員	草間俊一	岩手大学教授
専門調査員	細井計	岩手大学教授
専門調査員	吉田義昭	盛岡市教委文化財専門員
地区調査員（盛岡市）	菊池常雄	滝沢村文化財調査員
地区調査員（都南村）	勝文子　重範	都南村文化財調査員
地区調査員（紫波町）	佐藤正雄	岩手県文化財保護指導員
地区調査員（大迫町）	藤原美津雄	大迫町文化財調査員
地区調査員（宮守村）	水原義人	宮守小学校教諭
地区調査員（遠野市）	立花敏勝	大出中学校教諭
地区調査員（釜石市）	武山利一	釜石市文化財保護審議会々長
補助員	高橋哲郎	岩手大学文部技官

四、調査の方法は、地区調査員が調査カードを作成し、調査カードにもとづき専門調査員が確認調査を行なった。

五、本書は、主任専門調査員草間俊一が執筆し、文化課が編集にあたった。

目次

序　岩手県教育委員会教育長　新里　盈
例言
第一章　まえがき……6
第二章　街道の現状と文化財・その他……7
第一節　遠野街道……7
第二節　遠野街道沿いの文化財・その他……12
第三節　大槌街道……32
第四節　大槌街道沿いの文化財・その他……33
第五節　釜石街道……41
第六節　釜石街道沿いの文化財・その他……43
第七節　笛吹峠道・その他……52
第八節　笛吹峠道沿いの文化財・その他……53
第三章　街道沿いの公開施設……58
第四章　あとがき……59
写真
地図

大槌・釜石街道

第一章　まえがき

盛岡から奥州道中と分れて、東の太平洋岸に至る街道は、南から乙部―大迫―達曽部―遠野へ行き、遠野から界木峠を越えて大槌に行く道と、遠野から仙人峠または笛吹峠を越えて釜石に行く道とがあった。北の方は藪川―早坂峠―岩泉から安家の元村に出て、普代から野田に行く道があった。中間は盛岡から簗川―区界峠―田代―茂市―宮古へ行く道があった。本年はこの三つの道を歴史の道として調査することになり、私は乙部道を調査することになった。

江戸時代の『盛岡御領内大道筋記』（県立図書館本）によれば、「南部盛岡御城下所々道筋並出口」に七筋があげられ、「一、乙部道　神子田　足軽組丁　一、簗川道　上小路　足軽町　一、藪川道　下小路　足軽町」とある。その精細について、

「一盛岡ヨリ乙部マテ　三里半　平地
　此間簗川廣八間　深二尺　乙部川廣三間　深壱尺
一乙部ヨリ大迫マテ　四里半　同
一大迫ヨリ横田マテ　六里半　同
　此間稗貫川橋十間　幅二間　深二尺　猿ヶ石川廣八間　深壱尺五寸
一横田ヨリ釜石浦マテ　十里　山続
　此間佐比内川廣二間　深五寸　釜石川廣壱間　深五寸、皮抜山坂四里
　難所雪中牛馬不通
一横田ヨリ山口マテ　三里半　平地
　此間佐比内川廣三間　深壱尺
一山口ヨリ大槌マテ　六里　山続
　此間橋野川廣三間　深五寸
　青木坂壱間半雪中牛馬不通」

とある。

従って、盛岡―横田（遠野）までを遠野街道と呼び、横田―大槌までを大槌街道、横田―釜石までを釜石街道として述べることにする。それがむかしの道標にも則していると思われる。

なお、『南部領内行程』（県立図書館本）には

「一盛岡ヨリ乙部迄二里三十四丁六間　百十文
一乙部ヨリ大迫迄四里廿九丁廿八間　百七十九文
一大迫ヨリ達曽部迄二里廿二丁五十間　九十五文
一達曽部ヨリ遠野横田迄四里廿九丁十三間　百八十一文
一横田ヨリ大槌迄十里十八丁七間　四百文」

とあり、釜石への道は記されていない。これは大槌に代官所があったので、これが本道とされたが、幕末に釜石の発展が著しくなったので、『三閉伊道中図』と『三閉伊路程記』には大槌街道の記述がなく、釜石街道が記されている。釜石街道が主となったようである。

この道の調査に当っては、関係市町村に調査員を依頼し、その調査とその資料に基づいて、私が現地を案内された上で執筆したものである。関係調査員は盛岡市菊池常雄氏、都南村勝文子重範氏、紫波町佐藤正雄氏、大迫町藤原美津雄氏、宮守村水原義人氏、遠野市立花敏勝氏、釜石市武山利一氏で、大槌町は沢館栄吉氏をはじめ、関係市町村の教育委員会の方々の御協力を得て調査を行ったものである。なお旧街道は旧道と表現する。『三閉伊路程記』、『三閉伊道中図』は、両者相関連して書かれたもので、街道の状況の記録と絵図である。幕末の文化文政頃のものと思われる。脇街道であったか

らか、一里塚の手入も良くなかったようで、当時既に一里塚の破壊されたのが多かったのか、記録にも、絵図にもところどころ記録されていない。盛岡市公民館所蔵本で、もと盛岡藩主南部家所蔵のものである。本文では路程記、道中図と『　』をつけず表現することにした。なお、両者とも釜石を起点として神子田の舛形を終点に書かれているので、順序はこの報告とは逆コースになっている。その主要な絵図を後に一括して掲げるが、絵図の順とは逆に盛岡よりの順に並べることにした。

第二章　街道の現況と文化財・その他

第一節　遠野街道

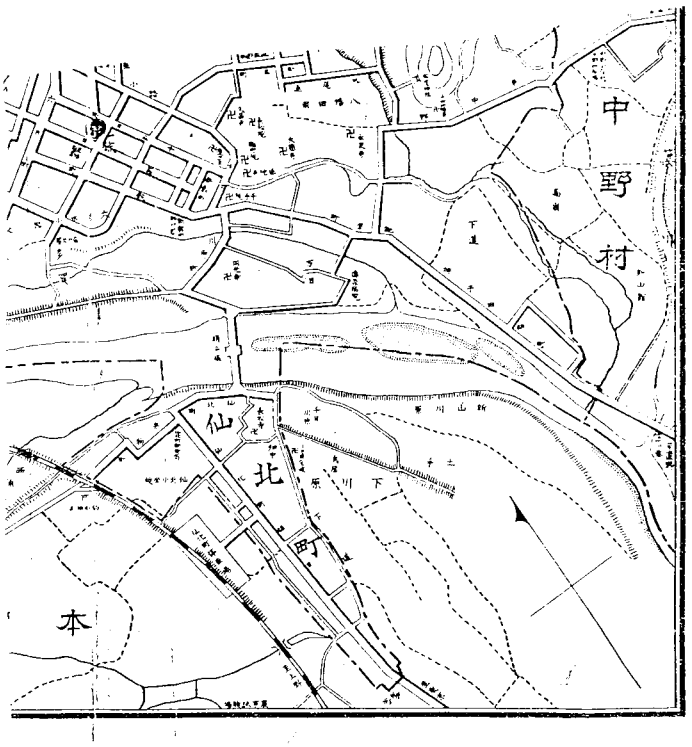
写1は写真図版1の番号である。①は第二節の文化財・その他の番号であり(以下同じ)、市町村別で通し番号になっている。

。盛岡市

盛岡城下より遠野への街道は、乙部道からはじまるが、南方の出口惣門を出て、鉈屋町から神子田の同心組町を出はずれると舛形があった。この間道路は舗装され、家並も昔の面影はないが(写1)、道筋とその幅員は昔と余り変らない。鉈屋町に入ると間もなく右手に大慈清水がある(写2)①。北上川の川渕に出て、舛形のあった附近は、北上川畔の護岸工事と、それに伴う川岸道路の開通などで、著しく変っていて、舛形の名残りはない(1図)。その附近にあった間引地蔵(写3)②は位置が変っているが、現在も立っている。舛形の東方に新山館③があった。舛形を出て簗川橋との間に盛岡バイパスが十文字に交叉していて、交通が頻繁である。

簗川橋を渡って、東中野から安庭へとつづくが、そこに簗川の茶屋(写5)⑤があり、その東方の見石には金毘羅神社(写4)④がある。それより、少し南に下ったところに東北農試の盛岡試験場があるが、その前に幕末に大筒鋳場所が建てられたが、今その跡は全くない。

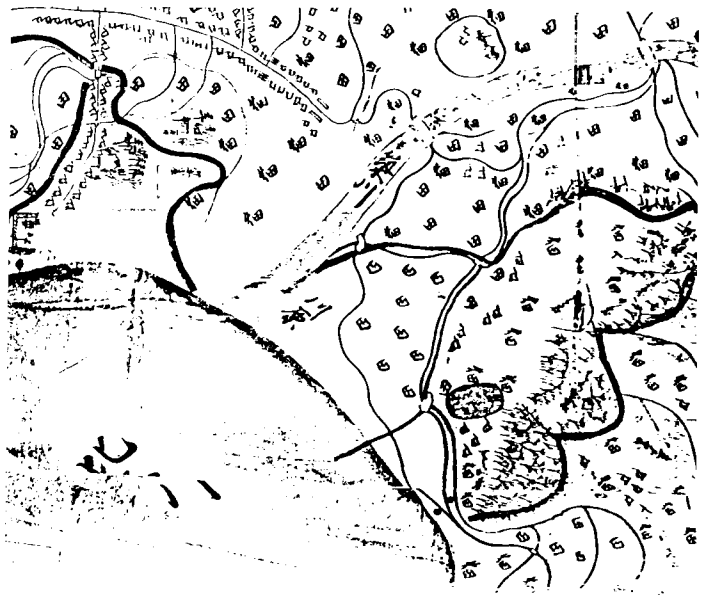
安庭から門の境附近の街道沿いに柳並木(写6)⑥があるが、そのところに一里塚のあったことが「上田通絵図」(2図)(盛岡市公民館蔵)に記されているが今はその跡は全くない。その東側に二二三mの蝶ガ森があり(写7)、その頂上にベニイタヤ(盛岡市指定天然記念物)がある。



1図　遠野街道　盛岡市地図(大正5年)

(明治橋－川原町－鉈屋町－神子田組町－舛形付近)

門に入って真立から蝶ガ森の南麓を通る道が、旧道らしいが、道中図の書かれた幕末には川沿の現県道と同じ道筋となっている。山麓の道を行くと道路わきに、シダレカツラ(写8)⑦があり、その先の山手に入ったところに諏訪神社がある⑧。



2図　遠野街道　蝶ガ森の一里塚

神子田組町の舛形は、上田組町にくらべて簡単である（奥州道中参照）

。都南村

都南村に入って、東側の沢目の丘陵の小高いところに高寺観音①がある。それから街道を進むと、北上川岸に三本柳渡し場（写9）②がある。北上川には盛岡の川原町と仙北町とをつなぐ舟橋より南には橋がなく、舟渡しであったので、各所に渡し場があった。盛岡市分では門の渡しがあり、都南村では四カ所あったが、この三本柳の渡しは昭和五十年頃まで、村営で利用されていた。現在も対岸の三本柳に舟番小屋が残っており、手代森側には当時、舟を繋留した柳の木が残っている。

旧道は現在県道となって道巾も広げられ、舗装されているので、単調な道になって、昔の面影は全くなくなっている。東側の平地に臨む丘陵には、各所に中世の館跡がある③⑤。田中附近から黒川小学校附近は旧道と変っているようだが、旧道のあとは水田や宅地となってそのあとは明らかでない。「黒川の石突」と称されるものがあり（写13）⑥、現在宅地内の庭石のようになっているが、これは、昔北上川の堤防がない頃、北上川がこの石の渕を洗い流れていて、船着場になっていたと云われる。道中図には「黒川のヨバレ石」という大石が記されているが、石突がこれに当るか明らかでない。なお、この附近が「塚の根」と云う地名になっているのは一里塚のあとか明らかでない。それを過ぎて乙部に入るが、如法寺（写15）⑦の前を通って、乙部の町並になる。路程記に「乙部ハ町屋作の家もあれど大方は農家也、酒屋なともありてよき村也」とある宿場であった。乙部のはずれに「乙部の方八丁⑧」がある。

。紫波町

紫波町に入ると、旧道と県道と違ったところが少しあって、江岸寺（写17）①の前に出る。それから柳田の一里塚（写19）②附近まで、旧道は県道に改修されて単調に舗装されている。柳田の一里塚をすぎて県道は南折するが、旧道は真直ぐ東南に舗装されない道を一kmほど行くと（写20・21）、南に折れる道の分れに「館の道標」（写22）④がある。南に折れる右の道を行くと、再び県道に出る（写23）。ここで旧道は県道と重って再び単調な舗装道路となる。遠山の少し東に入ったところに正音寺（写24）⑤がある。それから少し行くと西側の丘陵上に青麻神社⑥がある。青麻神社の南に星山峠があり、これが街道から分れて、日詰に出る分れ道となっていて、巡検道といわれている。そこから殿森山の山麓を通って、八掛に出る。ここで現在日詰より赤沢へ行く舗装道と交叉している。

八掛から少し行った木戸脇には一里塚がある（写25）⑦。この附近は県道が拡げられているばかりでなく、道路の高低をなくすために道路自体も五・五mほど掘り下げられているので、一里塚は西側のものは完全に消滅し、東側の一部が、道路東側のノリの部分に一部高まりとして残って、その存在を物語るにすぎない。それから四十数町行った鴨目田に、路程記に記されている一里塚（写26）⑧がある。脇街道であるので七里塚であったものであろう。この一里塚も木戸脇の一里塚と同様道路の改修に当って旧道が五m近く掘り下げられているので、西側のものは完全に破壊され、東側の一基が半分以上削り取られて、道路から見上げるところに断面を見せている。

更に進んで、平栗沢の手前に沢沿いの北上する道との分岐点があり、そこに明治九年のものであるが道標が立っている⑨。「右ハやま道　左ハもりおか道」とある。その分れよりやま道へ三〇〇mほど行った水田の中が、佐比内代官の跡（写27）⑩である。なお、街道を更に進むと、左手に鳳仙寺（写28）⑪がある。鳳仙寺より少し行って、右手に入る小道があり、それを行くと岩屋観音（写29）⑫がある。その手前にも洞穴があり、最近人骨と土器片が出土したとの事で片山洞穴住居跡と名付けることにした（写30）⑬。

街道を更に進むと、佐比内の中心地横町となる。藩政時代ここに高札場があったが⑭、現在は日詰に通ずる県道敷となっている（写31）。この横町の南はずれに検断屋敷⑮があった。今は水田となっている（写32）。

。大迫町

横町をすぎて間もなく大迫町に入る。町境より一kmほど行った右手に岩神観音堂①がある。それから少し行くと、石鳥谷へ通ずる県道との分岐点となる。そこから少し行くと岩の目に一里塚があった（写33）②。最近の道路の改修で破壊されたが、道中図、路程記にも記されている一里塚である。それから少し行くと丘陵が、稗貫川岸まで迫って歩行出来ないので、その岩鼻の部分は藩政時代は山越えをして（写34）、木戸ケ沢に下りた。その丘陵を下りたところに天保義民の碑（写35）③がある。

それを過ぎて、大迫町内に入るが、大迫は宿場で、下町・中町・上町と町並となっている。路程記には次の如くある。

『大迫は小場なれとも家並打そろい上町中町川原町下町と其名別にてよき町並也。町の入口右の方に神明の社有。川原町より早池峯行道有、東岸寺⑥と云寺あり。岳川の橋渡って官所有⑤。明林寺④と云寺あり。町はづれに金毘羅の社有』（遠野方面から書れているので、この報告の順とは逆である）とある。

街道は藩政時代のはじめか、それ以前は妙琳寺のところから北に折れて、教育委員会や山岳博物館のある丘の北側を通って、現在の大迫中学校の前に出たが、道中図の書かれた幕末には、現在の県道と同じ道筋になっている。大迫町を出はずれると、旧道は現在の県道の北側を通っていて、旧道のあとが農道とし残っている。その旧道の下中居に一里塚があったが（写45）⑩今はない。その旧道を進んで、旭の又川を渡って少し行くと、外川目へ行く道との分岐点になる。そこが茶屋と云われているが、休憩の茶屋があった名残か。その分れに道標がいくつかあったらしいが、現在一基だけある（写46・47）⑪が、諏訪神社（写48）や陽明寺墓地（写49・50）⑫に分散されているらしい。

茶屋のところから旧道は現在の県道に出て、宮守村の方に進むが、藩政時代の初めか、それ以前は東北方の山裾を通って、桜田に出て、現在の県道のところを通っている。宮守村に入る手前の上落合に一里塚⑬が道中図、路程記に共に記されていて、最近まで残っていたが近年の道路改修で破壊された（写52）。

。宮守村

宮守村に入っても、旧道が改修されて県道となっているが、県道に接して旧道の一部の残るところもある（写53）。少し行くと右手に金森稲荷神社①があり、更に行くと左手に十一面観音堂②がある。街道はやがて達曽部部落に入るが、その手前で東に曲って、また南に曲っている。達曽部は宿場で、路

程記には「達曽部ハ小場なれとも家並立つつきてよき村也」とある。旧道は現在の達曽部の家並の中程、左手に八幡宮の鳥居のあるところで(写55)、東に曲って、丘陵のうしろ(写56)を八幡宮③の前から愛宕神社④の前、達曽部中学の前を通って大川目に出る。その出口に古碑群がある(写57)。大川目の平坦地に下りた山裾を花巻―遠野の国道の岩脇橋から達曽部―宮守―馬越峠―附馬牛―国道とつづく県道を横切って(写58)、旧道は東南方に磔峠に向っている。その道を達曽部川を渡って、山の手にかかったところに塚の根の一里塚(写59)⑧がある。

一里塚から更に山中に入った旧道は、パイロット採草地道として手入がされ、利用されているところは約五〇〇mはよいが、それから外れて、磔峠に向う旧道は、山林中に叢の中にかくれてわからなくなっていて(写60)、利用する人は全くない。峠までの途中に古碑⑨などあって、旧道の存在を物語っているにすぎない。

磔峠は達曽部と下宮守との境界で、標高五四三mある。その道路の右手に「才の神」が祀られている⑩。径六m、高さ一mほど小石積の塚の上に「道祖神　安政五戊午天」と刻まれた高さ六五cmの自然石が立っている(写61)。地元で「ハッケ」と呼んでいたものが、磔峠となったものと云われる。峠から児野へ下る旧道は、テレビ塔に通ずる道の関係もあって自動車が通れる道として改修されている。途中に古碑もある(写62)。

児野から塚沢川を渡って、火石沢に出ると旧道は部落の中を通って(写63)火石沢の南側で遠野への県道に再び重なる。それから少し行くと、道の右側に「呼ばれ石(写65)⑫」がある。そこから現県道は大きく迂回して平坦地に下りるが、旧道はほぼ真直ぐ、東南方に急な坂を下って平坦地の山裾の県道に合する。そこに道標(写66)⑬がある。旧道は県道を横切って、上宮守の部落に向って、三角形の一辺を行く形で、農道として残る道を行く。途中に古碑などもある。

上宮守は宿場ではないが、路程記に「村の中程に御高札場有、愛宕社有、村端に善勝寺⑭と云寺あり」とあり、家並の多い部落であった。上宮守を出はずれると、旧道は石倉、戸草と現県道より北側の山裾を通っていた(写67)。途中の道路わきに「文政五年十月十六日」の「庚申塔」などもある。

戸草で、旧道は現県道を横切って南側に出(写68)、小峠に向っている。県道を横切ったところに小丘陵があり、そこに「月見観音(写69)⑯」がある。この月見観音のある丘の北側を通って、旧道は東南方に農道として利用されてよく残っており(写70)、ところどころに古碑⑰などある。ただ小峠への上り口附近が牧草地となっているところで一部消滅している。小峠の頂上附近で現県道と合するので、改修されて、昔の面影は全く失なわれている(写71)。

遠野市

小峠を越えると遠野市綾織であるが、小峠から滝沢部落まで下る旧道は失なわれて明らかでない。滝沢村のはずれにある佐々木寛一氏宅近くで、山谷川を渡って川の東岸に進む道が残っており、そこに一里塚があったと報告されているが①、今はその痕跡もない(写72)。東岸に出た旧道は現県道沿いに、僅かに重なっているが多くは河沿いに残る旧道を通っている。殊に千葉家(写74)の前あたりからは山谷川沿いの道をおお橋附近まで通っていたといわれる(写75)。しかし、道中図を見ると、滝沢村附近は山谷川の西岸の道を通っていて、旧道のあともあり、途中に石碑群②などもある(写73)。川の東岸にある千葉家③については「山根に長洞とて家壱軒有、少し小高処に亭前切石にてたたみ上などして、一際目に立屋敷構なり」(路程記)とある。山谷川沿の道は洪水のたびに通行が出来なくなったので、幕末には西岸の道となったが、藩政のはじめは東側の川沿いの道を通ったもので、一里塚(小峠の一里塚)もその道筋に築かれていたものであろう。

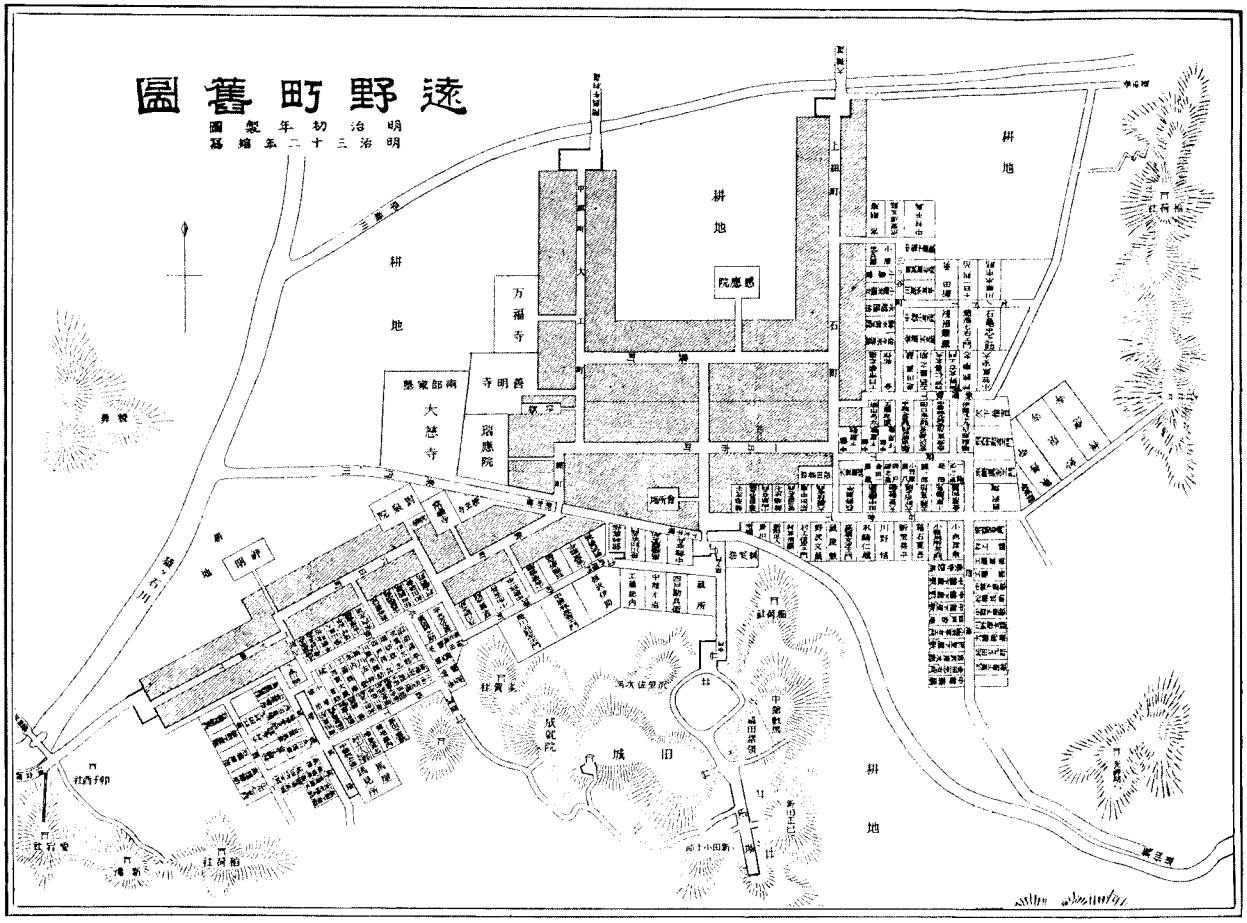
滝沢部落の南はずれで、山谷川を渡って八森に出ると、丘陵の中腹に統石の巨石(写78)⑮がある。大畑から田中にかけて旧道は現県道と違って山の手

に叢となって残っている(写79)。そして旧山口小学校の前で旧道は現県道より南側の下の方を通り、そこに一里塚があったと云われるが、距離の関係からも疑問がある⑥。

田中の愛宕神社(写82)⑨を過ぎたところから、旧道は、現在の現道より小高い山裾を通っていた。上り口は畑や、現県道が掘り下げられているので、僅かに残るにすぎないが、一〇〇mほど行くと旧道が残っていて、途中道のわきに石碑群などもある(写83・84)⑩。旧道がもとの県道に出たところの左手に八幡宮と聞称寺が並んでである⑪。更に東に進むと再び舗装された現県道に出るが(写86)、旧道は現県道と平行して北側にあったといわれるが、水田となってその痕跡は全くない。殊に砂子沢川を渡ったところに一里塚があったといわれるが⑫、その痕跡もない(写87)。

旧道は石上神社入口の鳥居のある附近で(写88)⑬、現県道と重なって、東に進むと根岸に「右ハもりおか道、左ハせんだい道」とある道標がある(写89・90)⑭。この「左ハせんだい道」とある南へ折れる道が花巻—遠野の国道に交わる現在の県道となっているが、旧道は根岸から東進して寒風を通り愛宕橋を渡って遠野に入った。この道も舗装されていて昔の面影はない。ただ寒風から愛宕橋までは現在の水田ところを通っていたらしいが、猿ケ石川の堤防修理の際、堤防上の道路となっている(写92)。

愛宕橋を渡って愛宕神社(写93)⑰の下を通って、遠野の町への入口に舛形があった(写94・105)⑱。遠野には後に述べる大槌または釜石へ行く上組町、附馬牛村に出る中組町、盛岡または仙台方面へ行く下組町の三カ所に舛形があった。そのうち、この下組町の舛形が最近まで残っていたが、最近国道の改修で殆んど破壊されてしまった。遠野町内は舛形—下組町—八軒町—六日町—新町—鍵町—一日市町—石町—上組町—舛形となって、大槌または釜石への街道となるが、それについては節を改めて記述する。



第3図　遠野市旧図(明治初年)　　遠野市立博物館提供

第二節　遠野街道沿いの文化財・その他

〈盛岡市〉

①　大慈清水

大慈寺境内に湧き出た清水を、松の大樋を埋めて鉈屋町までひいて、附近の市民の共同井戸として、江戸時代から今日まで利用されている。湧出た水は四つの舛に仕切られたところへ流されている。最初の舛は飲料水として利用され、次に食器洗場、次に野菜洗場、次に洗濯場として利用されている。

②　間引地蔵

江戸時代、神子田町裏の北上川に、間引いて流された嬰児が流れ着いていたので、土地の人が、供養の石地蔵を建てたものと云われている。

③　新山館跡

天正14年頃、南部氏と斯波氏と戦った古戦場、享保年間永泉寺がこの地に建立されたことがあった。幕末の頃、盛岡藩の洋学校日新館が建てられた。現在樹木数十本あるだけである。

④　見石の金毘羅神社

享保年間藩主利視公の勧請によって建立された神社であるが、境内に「享保廿乙卯天八月吉祥日」の記銘のある「一石一字供養塔」がある。「天下泰平、火難消滅、当所繁昌、国家安全、悉地成就、萬民快楽」「亡母父幼有縁無縁草木国土、六親眷属三界萬靈悉皆成就」と刻まれている。

⑤　築川の茶屋跡

路程記に築川茶屋とあるが、昔の建物は残っていない。

⑥　柳並木と一里塚（本文参照）

⑦　門のシダレカツラ

わが国では、岩手県にのみ見られる枝垂性のカツラで、完美な枝垂をなしている。国の天然記念物として指定されている。

⑧　門の諏訪神社

門の権現さんといわれた社で、宝暦十一年（一七六一）五月吉日の記銘のある石の手洗鉢がある。

〈都南村〉

①　高寺観音

当国三十三番札所の十番札所である。そのうしろに小山神社がある。

②　三本柳の渡し場（本文参照）

③　大泉院・手代森館跡

慶長二年（一五九七）開基と伝えられる。境内に聖観世音菩薩を安置した観音堂があり、十一番札所となっている。大泉寺のうしろ、東側の丘陵は手代森館跡である。

④　法領神社

寛保二年（一七四二）の創立といわれ、境内に「たも」の古木がある。

⑤　黒川館跡・館林神社

斯波氏の家臣黒川氏の居城であったが、天正十六年（一五八八）に南部氏に滅された。その館の中腹に館林神社が祀られている。「元禄十二乙卯年十年廿六日」の棟札がある。もと観音堂であって、大泉院境内の観音を安置していたが、明治初年の神仏分離の際、館林神社と称することになり、観音を大泉院に移したといわれる。

⑥　黒川の石突（本文参照）

⑦　如法寺・餓死供養碑

如法寺は花林山如法寺で、『邦内郷村志』によれば「稗貫郡寺林県大興寺末寺、報恩寺支配之」とある。文禄二年（一五九三）開基と伝えられる。如法寺参道の左側に「明和五戊子年二月五日」の銘のある餓死供養碑がある。

⑧　乙部方八丁

県内方八丁と称されるところは何か所かありそのうち佐倉河の方八丁は胆

沢城跡であり、太田の方八丁は志波城跡と推定されている。この方八丁も、須恵器や糸切底の土師器片などが出土している。北上川岸台地で、南側と北側は空濠で区切られている。平安時代開拓期の何らかの遺構かも知れない。

〈紫波町〉

① 江岸寺

『邦内郷村志』に「松島山　稗貫郡大迫県桂林寺末寺、報恩寺支配之」とあり、曹洞宗の寺院である。開基は元和二年（一六一六）といわれるが、現在の本堂は安政四年（一八五七）の建立である。

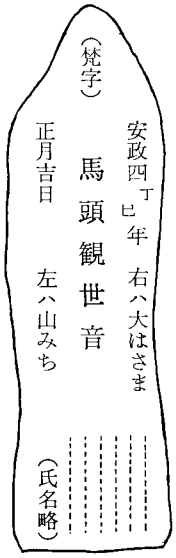
② 柳田の一里塚

路程記に一里塚と記されているもので、破壊されて原形をとどめない。現在藤原一男氏宅地わきにあったと云われる。

③ 八坂神社

『邦内郷村志』に「天王　社領十五駄　盛岡自光坊末流大学院　邑老不伝草創、棟札元禄四未六月重信公、享保六年利幹公、宝暦五年十一月利雄公。」とあるもので、藩政時代天王と称されていた。寛永九年（一六三二）十二月の南部重直黒印状があり、十五駄を給せられている。

④ 館の道標



⑤ 正音寺

『邦内郷村志』に「法廣山　仙台（註現在の水沢市）黒石正法寺末寺、報恩寺支配之」とある。文正年間の開基と伝えられる。寺内に安置する「木造毘沙門天立像」は寄木造りで、平安時代のものである。また隆三世明王像、軍荼利明王像、大威徳明王像、金剛夜叉明王像は共に一木造りで、平安時代の作品で、いずれも県指定文化財である。

⑥ 青麻神社

⑦ 木戸脇の一里塚（本文参照）

⑧ 鴨日田の一里塚（本文参照）

⑨ 中屋敷の道標

明治九年のものであるが、中央に駒形神社とあり。「右ハやま道、左ハもりおか道」とある。

⑩ 佐比内代官所跡

安政五年（一七七六）の「佐比内村絵図」に記載されている。佐比内は近くに朴金山があって、藩政の初め、丹波弥十郎などが金堀りを行ったところで関係文書がある。

⑪ 鳳仙寺

『邦内郷村志』に「立福山　遠野横田大慈寺末寺」とあり、曹洞宗である。寛文元年（一六六一）の開基と伝えられる。

⑫ 岩屋観音

入口の巾二・六m、高さ三・五mで、奥行八・五mの洞穴で、奥に高さ六八cmの石造聖観音坐像が安置されている。保存は良好で、十四番札所となっている。

⑬ 片山洞穴住居跡

最近人骨と一緒に多数の土器片が出土したものが鳳仙寺に保管されている。土器は弥生式土器片である。

⑭ 御制札場跡

「安永五年佐比内村絵図」に表示されているが、現在の県道敷となっている。

⑮ 検断屋敷跡

前記の村絵図に表示されているが、畑となって、その跡は認め難い。

＜大迫町＞

① 岩神観音堂

十五番札所である。

② 岩の目の一里塚（本文参照）

③ 木戸ヶ沢の義民碑

天保の百姓一揆の首謀者が処刑された場所で、そこに碑が建てられた。碑文は「一念不能萬法無過　心外無心々身是雄　天保八年十月二十三日」とある。碑の高さ一・二m

④ 妙琳寺

『邦内郷村志』に「亀森山　浄土真宗東方此寺什物。阿弥陀如来真向画像有之、其裏書。大谷本願寺実如印　文亀三年癸亥七月廿二日　稗貫郡衣更着郷（下略）」とある。

⑤ 大迫代官所跡

現在大迫町農業協同組合の建物のあったところである。

⑥ 到岸寺

『邦内郷村志』に「往生山　浄土宗、盛岡光臺寺末寺、有町北裏」とある。慶長三年（一五九八）の開基と伝えられる。

⑦ 大迫館

『邦内郷村志』に「在桂林寺南邑東山麓、往時城主稗貫従臣而藤原氏也、天正之頃城主云大迫右近、内応九戸政実（下略）」とある。

⑧ 中居館

⑨ 愛宕神社

『邦内郷村志』に「邑人不記草創、再興元禄七年甲戌修造焉」とあり、町を見下す景勝の地にある。

⑩ 下中居の一里塚

路程記に記されているが、昭和六年の耕地整理で破壊されて今はない。

⑪ 茶屋横と諏訪神社の道標

茶屋の民家の軒下に粘板岩の自然石に「左ハそとかハめ道」とあるが、諏訪神社境内に「天照皇大神宮・八幡大神・春日大明神」と書いた安政四年（一八五七）秋十六日の碑に「右ハとおの道」とあり別個の碑であるが、もとは二つ並んで茶屋の横にあったものと推定される。

⑫ 陽明寺墓地の道標

陽明寺墓地と云われる畑の一か所に石碑が数個集められて立っている。その中に道標が三基あり、何れも茶屋のところにあったものと考えられる。

(1) 寛政十二年（一八〇〇）三月十六日「南無阿弥陀佛」とある石碑に、「右ハとふの道　左ハ外川目道」とある。

(2) 慶應元年（一八六五）十月二十六日「馬頭観世音」とある石碑に「右ハとふの道　左ハやきまき」とある。

(3) 年号はないが地蔵尊を線刻した石碑に「遠野道　左川目道」とある。

⑬ 上落合の一里塚（本文参照）

＜宮守村＞

① 金森稲荷神社

創建は不明なれど、文政三年の寄進札がある。眠病がなおるというので昔は参詣者が多かった。

② 十一面観音堂

草創は七百年位前と伝えられる。境内に杉の大木あり。また古碑あり。古いものは天明六年の庚申供養塔である。

③ 達曽部館と八幡宮

『邦内郷村志』に「在宿北裏、不知往古誰人為城主、城東有八幡宮、社内有棟札、慶長十三年三月十五日、領主多田弥兵衛、（下略）」とある。

④ 愛宕神社

標高三二〇mの山上に祀られている。堂宇は文化四年建立の棟札がある。

参道入口の鳥居の附近に古碑群あり寛政十二年の庚申塔が最も古い。

⑤　宝泉寺

『邦内郷村志』に「金勝山　臨済宗盛岡東禅寺末寺」とあるが、開基は弘治二年（一五五六）といわれるから、遠野の東禅寺の末寺として開山したものであろう。

⑥　永林寺

西峰山　浄土真宗　盛岡本誓寺の末寺となっているが、元和元年（一六一五）開基といわれる。

⑦　熊野神社

境内に古碑群が多くあり、古いのは享和元年（一八〇一）の庚申塔である。

⑧　塚の根の一里塚

路程記、道中図にも記されている一里塚で、道の両側にそれぞれ一基そろって現存している。径七～八mで、高さ二mほどである。土地では七里塚と称している。保存は良好といえる。

⑨　古碑

旧道のあった山林中に二基の碑があり、現在樹木にかくれているが、一基は寛永四年（一六二七）の「有縁無縁供養塔」（高さ一m）で、他は文久四甲十年三月十七日の馬頭尊である。

⑩　磔峠の才の神（本文参照）

⑪　塚沢神社（お地蔵さん）

子安地蔵堂で元禄四年（一六九一）の建物で、境内に古碑が多くある。古いのは安永二年（一七七三）の「寒念佛供養塔」（高さ一、四m）である。

⑫　呼ばれ石

たて五m、横六m、高さ一、五mほどの巨大な花崗岩が、道路のかたわらにあり、呼ばれ石と称されている。そのほぼ中央に二〇cm四方の深さ一〇cmの穴があり、そこに高さ七七cmのほぼ四角な石が立っており、五輪塔婆の梵字が書いてある。

⑬　上宮守の道標

角柱で高さ七三cm、巾三八cm、厚さ二〇cmあり、年号はないが、「右ハもりおか道、左ハはなまき道」とあり、なお盛岡城下よりの里程が書いてあるようだが、短時間では読み取れなかった。

⑭　善勝寺

宮護山善勝寺、綾織村光明寺、報恩寺支配で、慶長十年建立と伝えられる。本堂は天保元年建立のもので、山門の前に六地蔵があり、嘉永年間のものである。

⑮　天神社と古碑

道路わきの小さい祠で、その前に古碑があり、嘉永元年の湯殿山の碑である。

⑯　月見観音

旧道わきの小丘の上にあり、遠野七観音の一つで、五番宮守の寺（月見山平沢寺）と呼ばれた。

⑰　古碑

安政四年（一八五七）の念仏供養塔（高さ一、二六m）。

⑱　高峠碑

旧道の西南側に下峠という道があり、現在山林となっているが、そこの土木工事の際出土したと云われる。「天保十三年四月十日、高峠山大権現」と刻まれている。現在のところに移動して立てたものである。

〈遠野市〉

①　小峠一里塚跡

大正十一年の岩手県一里塚調査の際、小峠の七里塚として報告されたものであるが、昭和四十年頃開田された際破壊された。この一里塚については

路程記、道中図にも記されていない。

② 滝沢の石碑群

嘉永五年（一八五二）の「金毘羅大権現」「和讃念佛供養」、元治二年（一八六五）の「南無阿弥陀佛」などの石碑群がある。

③ 曲屋千葉家

住宅の面積一二二坪、畜舎部分四一坪ある豪荘な曲家で、かつて作男十五人、馬二十頭いたといわれる。東京大学選定日本十大民家の一つである。（本文参照）

④ 田屋の大杉

目通りの周り七・一m、樹幹の高さ三〇mの大杉で、遠野市の天然記念物となっている。

⑤ 続石

二個並んだ巨石の上に皿状に一つの石がのっているドルメン状の石である。台石は高さ約二・一mで、皿石は長さ七・三mである。花崗岩である。

⑥ 山口の一里塚

『綾織郷土誌』（昭和七年発行）に「山口小学校の住宅附近に七里塚と云ひし処あり」とあるもので、その所在は明確でない。

⑦ 谷地館跡と館八幡宮

建保年間阿曽沼氏が遠野に居城を築いた時、その一族宇夫方氏の築いた館といわれる。周りに濠が周らされている。現在その館の一部に八幡宮が祀られ、他は水田となっている。

⑧ 光明寺

照牛山光明寺、曹洞宗、現在地に建てられたのは天正十二年（一五八四）といわれる。本尊の阿弥陀如来は室町時代の作で、遠野市の文化財に指定されている。

⑨ 愛宕神社前の石碑群

明和元年（一七六四）の「青面金剛塔」が最も古いのをはじめ、江戸時代の古碑がいくつかある。

⑩ 大久保附近の旧道と石碑群

享保五年（一七二〇）の梵字の碑をはじめ、享保二十年の「阿弥陀仏大菩薩」、明和四年（一七六七）の「念佛供養塔」などがある。

⑪ 聞称寺

真宗大谷派、岩滝山、明暦四年（一六五八）の開基、現在の本堂は弘化四年（一八四七）に再建したものである。近くの八幡宮の鳥居近くには寛政十年（一七九八）の「百萬遍供養塔」がある。

⑫ 砂子沢川東岸の一里塚跡

『綾織村郷土誌』（昭和七年）に記されているが、当時既に破壊されて、原形を留めていなかった。しかし道中図にも路程記にも記されていない。

⑬ 石上神社

阿曽沼氏入部の時に勧請されたといわれ、後南部氏が領主になってからも、新田氏に命じて祭祀を司らせたという、神刀の太刀は、「永和二年八月日　宝寿」の銘のあるもので、県指定の文化財となっている。

⑭ 西門館跡（鵜崎館）と八幡宮

阿曽沼氏の家臣鵜崎右京の居館といわれる。今日館跡に八幡宮が祀られてある。八幡宮の御神体は鉄製の懸佛である。八幡宮の棟札に「元治元年十一月廿五日」の再興のものがある。

⑮ 根岸の道標

宝暦五亥年
右ハもりおか道
六月十六日
左ハせんだい道

⑯ 出羽神社

御神体は銅製聖観音で、江戸時代は羽黒堂と云われたが、明治になって出羽神社と改めた。社の後に羽黒石と称する巨岩がある。旧道から参道に入るところに古碑群がある。

⑰ 新滝の愛宕神社

寛治年間の創建と云われ、遠野市の入口の丘陵上にあり、本殿、拝殿など整備した神社である。参道入口に多くの石碑群がある。近くに線刻した五百羅漢がある。

⑱ 下組町舛形

舛形当時の土塁が一部残存しているが、道路改修で大半破壊されてしまった。

⑲ 伊勢両宮神社と木ノ下の舟渡し跡

創建は阿曽沼氏入部の時とも建武年間南部師行とも云われているが、もとは、土渕の石田にあったが、現在の場所に遷ったのは正徳元年（一七一一）である。この境内に松尾社ありその近くに、遠野より対岸の新里に渡る舟渡しの跡があったと云われている。愛宕橋の架橋が寛文六年（一六六六）であるから、それまでこの舟渡しが利用されていた。

⑳ 多賀神社

鍋倉山の西腹にあり、この地方最古の創建の社と云われている。阿曽沼氏時代のものである。境内には樹令数百年の杉の木がある。

㉑ 鍋倉城跡と南部神社・市立博物館

中世の領主阿曽沼氏は、もと松崎の横田城にいたが、天正年間広郷の時、ここに居城することになり、城下町を形成した。慶長年間阿曽沼氏滅亡後、寛永四年（一六二七）八戸より南部直栄この地に移封されて、ここを居城として、明治維新までいた。明治二年廃城となったが、建物はないが山城の名残を留めている。現在その一部に南部神社が建てられ、南部師行などを祀っている。この鍋倉城跡周辺は遠野市の政治・文化の中心で、合同庁舎・裁判所・市民センター、図書館、博物館などがある。

㉒ 鍋倉城の道標

大槌街道の松崎より移したものである。碑の表には次の如く刻まれており、裏には明治三十年九月その移転の理由が刻まれている。

右ハおふつ津
子産聽鄭国之政以其乘輿濟人於溱
洧孟軻譏之某等相謀成征可謂能知
所用其力也矣
文久三癸亥九月　濁瀬釣徒識　（氏名略）
左ハはや津祢

㉓ 遠野市内の神社・佛寺

遠野は中世阿曽沼時代からの城下町で、江戸時代まで引続かれたので、旧町内に由緒ある神社・佛寺があるが、精細は略し寺院の名称を列記する。貴福山対泉院（曹洞宗）、金円山常福寺（時宗）、宝林山柳玄寺（曹洞宗）、福聚山大慈寺（曹洞宗）―梵鐘は宝永七年（一七一〇）小泉仁左衛門清尊作―、鳳徳山瑞応院（臨済宗）―本堂は遠野市の指定文化財―、金光山善明寺（浄土宗）―境内にある五輪塔は室町時代のもので、遠野市の指定文化財―、白泉山万福寺（真言宗大谷派）―境内の久子翠峰の墓は遠野市指定文化財―、北身延波木井山智恩寺（日蓮宗）―日蓮上人御真筆と伝えられる曼陀羅は遠野市指定文化財―。

㉔ 宇加神社と一里塚碑

宇迦御魂を祀る神社であるが、境内に昭和三十六年建立の「旧蹟一里塚」の碑がある。この地方の起点であったと云われる。真疑は明かでない。

㉕ 日枝神社と欠ノ上稲荷神社

遠野旧町内の東はずれの丘陵に日枝神社と欠ノ上稲荷神社がある。

1．盛岡市　遠野街道の入口(鉈屋町)

2．盛岡市　大慈清水

3．盛岡市　間引地蔵

4．盛岡市　見石の金毘羅神社

5．盛岡市　築川茶屋附近(北より)

6．盛岡市　柳並木(南より)

7．盛岡市　蝶が森

8．盛岡市　門のシダレカツラ

9．都南村　三本柳の渡し(村営当時のもの)

10．都南村　法領神社

11．都南村　大泉院(左側が観音堂)

12．都南村　館林神社

13．都南村　黒川の石突

14．都南村　餓死供養碑

15．都南村　如法寺

16．都南村　乙部の家並

17. 紫波町　江岸寺

18. 紫波町　八坂神社

19. 紫波町　柳田の一里塚跡

20. 紫波町　柳田の一里塚よりの旧道
（真直に林の方に進む道）

21. 紫波町　館山附近の旧道

22. 紫波町　館の道標

23. 紫波町　館山の旧道より再び県道に出る附近

24. 紫波町　正音寺(四本の木の立つところ)

25．紫波町　木戸脇の一里塚

26．紫波町　鴨目田の一里塚

27．紫波町　佐比内代官所跡

28．紫波町　鳳仙寺

29．紫波町　岩屋観音

30．紫波町　片山の洞穴住居跡

31．紫波町　佐比内高札場跡

32．紫波町　佐比内検断所跡

33. 大迫町　岩の目の一里塚跡

34. 大迫町　岩の目の山越えの旧道
（大迫側よりの登り口）

35. 大迫町　木戸ケ沢義民の碑

36. 大迫町　宿屋をしていた家

37. 大迫町　山岳博物館

38. 大迫町　妙琳寺

39. 大迫町　大迫代官所跡(農協の建物)

40. 大迫町　到岸寺

41. 大迫町　大迫館跡

42. 大迫町　中居館跡

43. 大迫町　愛宕神社

44. 大迫町　旧道あと(水路のところ)

45. 大迫町　下中居の一里塚のあった附近の旧道

46. 大迫町　下中居の茶屋のあったところ

47. 大迫町　茶屋の道標

48. 大迫町　諏訪神社の石碑群(右はしが道標)

49. 大迫町　陽明寺墓地の道標(1)

50. 大迫町　陽明寺墓地の道標(2)

51. 大迫町　巡検使道(土沢町への道)

52. 大迫町　上落合の一里塚跡(小屋の附近)

53. 宮守村　現県道の傍に旧道が残っている

54. 宮守村　達曽部の家並

55. 宮守村　県道より旧道への入口

56. 宮守村　八幡宮への旧道

57. 宮守村　愛宕神社入口の石碑群

58. 宮守村　塚の根の一里塚に向う旧道
（真直ぐ舗装してない道）

59. 宮守村　塚の根の一里塚
（東より・南塚を撮る）

60. 宮守村　磯峠に向う旧道
（廃道となっている）

61. 宮守村　磯峠頂上の才の神

62. 宮守村　磯峠への旧道

63. 宮守村　火石沢部落への旧道(左に入る道)

64. 宮守村　塚沢神社(お地蔵さん)

65. 宮守村　呼ばれ石

66. 宮守村　上宮守の道標のあるところ
（右に入るのが旧道）

67. 宮守村　戸草に向う旧道（左側の草の生えている道）

68. 宮守村　大橋への旧道

69. 宮守村　月見観音

70. 宮守村　大上附近の旧道

71. 宮守村　現在の小峠附近の道

72. 遠野市　小峠の一里塚跡（田のところ）

73. 遠野市　滝沢の旧道と石碑群

74. 遠野市　綾織の千葉家(曲屋)

75. 遠野市　千葉家附近の旧道

76. 遠野市　田屋の大杉

77. 遠野市　綾織のオオバシ

78. 遠野市　続石

79. 遠野市　続石附近の旧道と道路わきの石碑群

80. 遠野市　旧道が現県道と一緒になる附近

81. 遠野市　光明寺

82. 遠野市　綾織の愛宕神社前石碑群と旧道

83. 遠野市　大久保附近の旧道

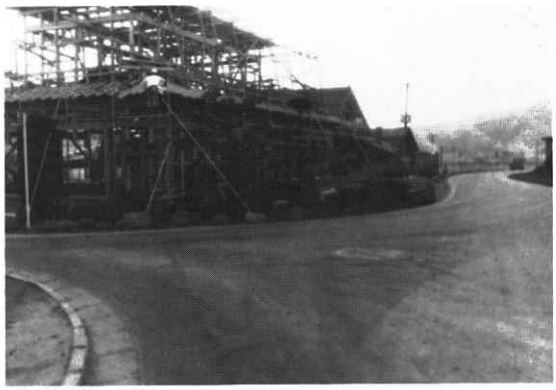
84. 遠野市　大久保の旧道傍の石碑群

85. 遠野市　大久保を通って県道に出る附近の旧道

86. 遠野市　上大久保、聞称寺前の旧道が県道に出る附近

87. 遠野市　砂子沢川東岸の一里塚跡附近の旧道のあったところ

88. 遠野市　石上神社入口


89. 遠野市　根岸の追分

90. 遠野市　根岸の追分にあった道標

91. 遠野市　出羽神社

92. 遠野市　寒風より愛宕橋に向う旧道

93. 遠野市　愛宕神社

94. 遠野市　下組町の舛形跡

95. 遠野市　伊勢両宮神社

96. 遠野市　対泉院

97. 遠野市　常福寺

98. 遠野市　柳立寺

99. 遠野市　大慈寺

100. 遠野市　瑞応寺

101. 遠野市　善明寺

102. 遠野市　知恩寺

103. 遠野市　明治時代の遠野市六日町　（遠野市立博物館提供）

104. 現在の六日町

105. 昭和25年頃の桝形附近　（遠野市立博物館提供）

第三節　大槌街道

。遠野市

遠野から大槌への街道は、現在、野崎までは遠野―川井村への国道三四〇号線となって改修舗装されていて、昔の面影は全くない。国道と分れた後の大槌街道は一般道路となっているが、自動車が通れるように改修されているので昔の面影はないが、山中に入ったところは自動車の通れる道に改修される際、道筋が変えられているので、旧道は残っているが、その反面、人が誰れも通らないため道の姿をなくして藪となって不明なところもある。次にその精細を述べる。

大槌または釜石への出口の上組町と舛形附近は国道として道巾も拡張した上、過去に軽便鉄道の敷設などで大部変っている。ただ舛形を出たところに、延享甲子天（一七四四）の道標があった。「右ハかまいし道　左ハをふつち道」とある㉖。現在戸沢自工前に移転してある。

舛形を出て、真直ぐ北へ、上早瀬橋を渡って、新張―八幡―五日市と進む街道は、良く舗装された国道となり昔の面影はない。しかし国道の傍に、ところどころ古碑群が比較的多く立っている。また、早池峯への参拝者も多かったのか、早池峯への分れ道が多く、そこには道標が立っている㉗㉛㉝。似田貝には一里塚があったが㉜、今はその痕跡もない。

本宿すぎて、小烏瀬川沿いに道が弯曲しているが、アイオン、カザリン台風で、川道が旧道部分を大きくけずりとったので、現在は旧道より東側を通っていることになる。

国道は野崎―火石で北の川井村の小国へ向うが、旧道は火石で分れて東へ界木峠に向っている。もと小国への分れは和野にあり、旧道の分れに石碑群があり、その中に一つの道標がある⑪。「右おふつち道、左おふくに道」とある。田尻を通って大洞に行くと、一里塚があったが、今はない⑫。大洞附近から、次第に山の手にかかるので、その附近から、新しい道路が作られて、旧道が残っている。殊に、旅籠跡⑬から界木峠に向う旧道は川沿いにほぼ残っていたが、最近のダム工事などで大部破壊された。現在の界木峠越の道は一般に利用されていないが、自動車の通れる道に川沿の山の斜面を削って新たにつけられている註。

。釜石市

界木峠①を越える街道は、現在和山牧野開発道路としても改修されているが、旧道は赤柴川の上流の沢沿いを通っていた。現在旧養鱒場までは道を見分けるのが困難な状態である。江戸時代でもこの附近は満足な道になっていなかったことは、文政十年（一八二七）の児島大梅の『和山峠の記』に、大雨の時にこの峠をこえた状況を次の如く書いてあることによって明らかである。

「茫々たる草原、幾筋ともなく水押す跡のくひこみたる赤砂を踏みつけつつゆく。五人の同行或は別れ或は行逢、おもひおもひに足の向たらむ筋を別々に下る。いつこに落合ふともさたかならざる路のおほつかなさに、こなた行くものああと喚へは、あなた行くものおおと答え、かたみに聲をたのみにゆく」（『昭和五十三年度釜石市指定文化財調査報告書』による）

養鱒場からの旧道は、現在も残っている。ひらくずには街道沿いに愛宕神社③がある。和山の三軒茶屋④は、大槌街道の中継地で、遠野からの農産物、大槌からの塩その外海産物の売買交換が行なわれた重要な地点で、その名の通り、三軒の家があった。現在も二軒残っていて人の通行もあり、旧道もはっきりしている。

三軒茶屋から初神⑤に出、そこから切石峠を越えて上台に出る。この道は殆んど利用する人もないので地図上に標示されていないが、叢となって旧道のあとが残っている。途中に古碑などもある⑥。上台から赤坂―砂場を経て芳形に向うが、赤坂附近では開発道路が旧道と重っていて、人家も一軒あ

る。砂場には滝の子神社がある⑦。

砂場から芳形に行くが、旧道あとはあるが今は通る人もいない。芳形には明治時代まで茶屋が二軒あったといわれ、左手に石垣の跡や土塁が残っている。それから少し行った右手に児島大梅の句碑がある⑧。それから道は種戸坂に向うが、全く通る人もないので、旧道の跡は残っているが、土地の地理に精しい人でないと通ることは困難である。途中ようくらには古碑がある⑨。

。大槌町

種戸坂を越えて、種戸川沿に開通している新山牧場への道路に出るが、ここから大槌に出向う旧道は改修舗装した立派な道路となっている。

舗装された旧道の種戸川目に一里塚があり、そこにある民家は屋号を「塚やしき」と称している⑴。更に東に進み、札場の徳並への分れに古碑群があり、そのなかに道標が一基ある②。札場から東へ進んで、「中渡」附近で旧道は川の南側（現在の道路の対岸）を通ったらしいことは、昔の道のかたわらに、石の地蔵尊像や、古碑などあることによって推察されるが③、どこで再び、現在の道に戻ったか、明らかでない。

そこからの旧道は、現在改修舗装された一本道が小鎚川沿に通じている。わらびつなに古碑群がある④。下塚には一里塚があり⑤、北側の一基が残存している。浜街道に出る手前の桜木町附近は住宅地として造成され道路は小鎚川の堤防上に通じているが、旧道の道筋と若干違っていると思われる。そしてこの附近の古碑は小鎚橋附近に集められている⑥。

大槌街道は浜街道と一緒になって大槌代官所前を通っていた⑦。

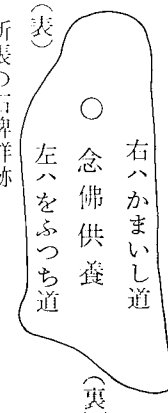
⑭ この街道は海岸と内陸を結ぶ大動脈であったが、笛吹峠越の自動車道の開通によって、人馬しか通らないこの街道の利用度は急激に衰えた。これに対し昭和七年地元の土渕村村長、栗橋村長などがこの道路の改修を考えて以来、昭和十六年から本格的調査に着手したが、戦争などで一時中断し、戦後岩手県林業課、土木課の援助を受けて昭和二十八年にその改修工事を完成した。その記念碑が堺木峠の頂上近い道路に立っている。

第四節　大槌街道沿いの文化財・その他

〈遠野市〉

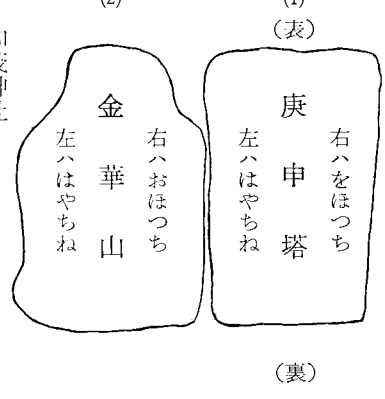
㉖ 上組町舛形跡と道標

舛形については本文参照、道標



㉗ 新張の石碑群跡

もと十数個の古碑があったが、現在遠野郷八幡宮境内に移されている。中に二つの道標があった。



㉘ 加茂神社

文治五年阿曽沼氏の創建といわれる。早池峯山妙泉寺新山宮の末社で、早池峯の遥拝所であった。

㉙ 遠野八幡宮

阿曽沼時代に勧請されたといわれる。南部直栄が移封された際、八戸での氏神櫛引八幡宮の分霊を移祭して保護を加え、神事の流鏑馬は遠野市指定文

化財となっている。境内には新張にあった石碑群が移されてある。

㉚ 五日市館跡と倭文神社

阿曽沼氏の家臣立花氏の館であった。館跡に立花氏の守護とした文殊菩薩を祀った文殊堂が修験者などの修業道場として江戸時代栄えたが、明治初年の神仏分離の際、倭文神社と改めて今日に至っている。

㉛ 谷地の道標

天保三辰二月十日
右ハをふつち
金毘羅大権現
左ハはやちね
願主
下谷地村
清八

㉜ 似田貝の一里塚跡

共に破壊されているが、北塚のところに家を建てた似田貝氏は屋号を「塚」「塚の根」といわれた。現在はない。南塚の跡は消防屯所になっている。

㉝ 早池峯参道古道跡と石碑群

写真に見える鳥居の下を通って、北に早池峯参道があったが、現在は古道は水田となって別のところに道路が開通している。その鳥居の傍に古碑群がある。その中に寛保三年（一七四三）「御はやつね参道」の碑がある。

㉞ 旧菊池家曲家

小友町高木にあった菊池家を移転復元したもので、国指定文化財である。

㉟ 八幡沢館（八幡座館）跡

阿曽沼氏の家臣菊池豊前の居館であった。

㊱ 常堅寺

蓮峰山常堅寺、曹洞宗。この寺は平安時代安倍氏時代に創建された古刹で天台宗であったといわれるが、室町時代に曹洞宗に改めたといわれる。境内のヒバ、サワラ、スギはいずれも樹令八〇〇年を数え、サワラは遠野市指定の天然記念物であり、仁王像も遠野市指定文化財である。また一字一石経塚碑もある。

㊲ 阿部屋敷（安倍館、屯館）跡

平安時代安倍氏が奥六郡を支配した時代、一族北浦六郎重任が屋敷を構えたところといわれ、平地であるが、屋敷の周囲に濠の跡があり、西隅には的場跡がある。中世の土豪屋敷と考えられる。現在阿部与市の宅地となっている。

㊳ 本宿の石碑群

高砂子商店前と留場の二か所に江戸時代の古碑群がある。

㊴ 野崎の石碑群

㊵ 角城館（久手館）跡

阿曽沼氏時代の山城の跡である。

㊶ 旧栃内道の石碑群と道標

大槌街道と小国街道との分れに十数基の石碑群がありその中に、道標が一基ある。

天保六乙未年
右　おふ川ち道　同行
左　おふ具尓道　講中
五月大吉日
（氏名略）

㊷ 大洞の一里塚

大正十一年の一里塚調査に原形を有していたが、昭和二五～二六年頃、水田、畑となって破壊された。

㊸ 旅籠跡

界木峠麓の旅籠があったところと云われる。

＜釜石市＞

① 界木峠

大槌街道の海岸に出る峠で、現在は和山牧野開発道路が通じている。

② 和山のシナノキ

方言でマダノキと呼ばれるもので、樹令四百年以上といわれ、県内第一の巨木で、釜石市指定天然記念物である。

③ 和山ひらくずの愛宕神社

現在山林の中に荒れている。

④ 和山の三軒茶屋と古碑群

その名の通り三軒の茶屋があった、休憩場所であるが、現在も二軒が残って住んでいるが、一軒は空家になっている。文政六年（一八二三）の「南無阿弥陀佛」「湯殿三山供養」などの碑がある。

⑤ 初神

もと近くに和山分校があった。

⑥ 上台の火見櫓と古碑

文政六年（一八二三）の「念佛供養塔」、慶応三年（一八六七）の「三峯山」の碑などある。

⑦ 砂場の滝の子神社

月の神様として、多数の参詣者があったといわれる。

⑧ 芳形の茶屋跡と児島大梅の句碑

芳形に茶屋が二軒あったと云われる。建物はないが、石垣、土塁が残っている。近くの道路の向い側に児島大梅の句碑がある。文政十二年（一八二九）門弟陸中山田の富豪貫洞卓堂と小森卓郎の建立したものである。

「雨晒日や座敷まで来流馬酒縄」大梅

⑨ ようくらの三峯山大権現」の碑

文久三年五月十九日の銘のある大きな碑で高さ二・一八mある。

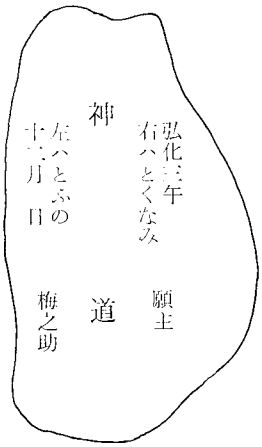
＜大槌町＞

① 種戸川口の一里塚跡

現在一里塚の跡はまったくないが、塚屋敷の屋号をもつ家がある。

② 札場の古碑群と道標

寛政元年（一七八九）の「奉庚申供養」をはじめ、文政、嘉永などの古碑が一か所にまとめられてある。その中に弘化三年（一八四六）の道標がある。



③ 中渡の地蔵尊

地蔵尊は高さ八八cmでその傍の石に次の如く刻まれている「奉造立地蔵一躰、仍死功徳六親大属七世父母能引導」「元文二丁巳天三月廿四日」とある。その他享保十一年と寛保元年の念佛供養塔などある。

④ わらびつなの古碑群

寛保元年（一七四一）の「南無阿弥陀佛念佛供養」碑をはじめ、文化十五年七月十六日「念佛飢饉供養」など、江戸時代の碑が十数基が一か所に集められている。

⑤ 下塚の一里塚

街道北側の一基が残っていて、その近くにある家は塚屋敷の屋号で呼ばれている。その近くに、文久二年の山神社と天保二年金毘羅大権現の碑がある。

⑥ 小槌橋附近の古碑群

浜街道と大槌街道と合流する小槌橋附近に多くの古碑群があったが、現在

祝田住宅地に至る右側民家前に移された。享保七年、享保十三年、宝暦十三年、明和元年など比較的古い供養碑がある。

⑦　大槌城跡と大槌代官所跡

大槌代官所は現在大槌小学校の校地にあった。

遠野市　上組町舛形のあったところ

遠野市　上組町舛形を出たところにあった道標

遠野市　新張の石碑群

新張の道標

遠野市　谷地の分れ

遠野市　谷地の道標

遠野市土渕　遠野郷八幡宮

遠野市　足洗川の道標

遠野市　野崎の石碑群

遠野市　栃内観音

遠野市　和野の分れ

和野の道標

遠野市　大洞の一里塚跡

遠野市　大洞の旧道あと(川沿の叢のところ)

遠野市　旅籠跡と旧道(林の中に入っていく道)

釜石市　堺木峠頂上附近

釜石市　ひらずくの愛宕神社とその附近の旧道

釜石市　三軒茶屋の旧道

釜石市　和山附近の旧道
（左に入るのが旧道）

釜石市　初神から切石峠を望む

釜石市　上台より切石峠への登り口

釜石市　赤坂の火見櫓とその附近の旧道

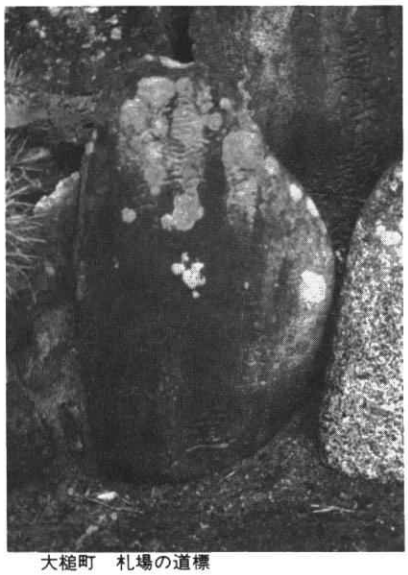
釜石市　芳形の茶屋場跡

釜石市　児島大梅の句碑

大槌町　種戸坂を越えて新山牧場への道路へ出たところ

大槌町　種戸川目の一里塚跡

大槌町　札場の石碑群



大槌町　札場の道標

大槌町　下塚の一里塚

大槌町　下塚附近の旧道

第五節　釜石街道

。遠野市

遠野から釜石への釜石街道は現在国道二八三号線で、最近仙人トンネル道路の開通によってその利用は著しく高まっている。旧釜石街道は仙人峠の難所があり、そのためトンネル開通以前は自動車通行可能な笛吹峠越えの釜石への道が一般に利用されていた[41]。

国道二八三号線は旧釜石街道に沿って、改修舗装されているので、旧道は面目を一新しているが、ところどころに旧道の残っているところがある。殊に仙人峠越の道は軽便鉄道の開通していた頃大巾に改修されたものであるが、現在も昔の面影を残している。

旧道は上組町から舛形を出て、直ぐ右に曲って、東に向っているが、現在の国道は南に寄って、道中図に「ソウゼン」と書いてある駒形神社の直ぐ前を通っている。駒形神社に石碑群がある。道路の改修舗装の際、道路傍の石碑は一か所に集められたものが、ところどころに石碑群としてある[44][45]。次に前川原の十字路のところに石碑群がある。その附近で国道が巾広くなっているところがあり、併行してあった旧道の一部ととりこんで舗装したためである。この石碑群の北方に、万通寺、喜清院がある。

関田の一里塚の手前に、旧道は国道の北側に残っていて、現在国道から一〇〇mほど離れて南側にある菊池氏の宅地のところに、茶屋あり、屋号を茶屋と云っている。宅地の南側の道は旧道の名残りである。関田の一里塚は国道と国鉄線路の間にあったが、現在は破壊されてない。旧道はこの一里塚のところで国道を南へ曲って中妻―関口を通って、赤川で再び、国道と重なる。この道も釜石街道が国道として改修以前は県道として利用されていたので、道路は舗装修理されて昔しの面影はない。関口には古碑群がある[45]。

赤川で国道と重なっている旧道は、猫川を渡る赤川橋の近くに、赤川の一里塚があった。現在右側の一基が残存しているが[49]、左側は道路で破壊されている。それから少し南へ進むと左側に六角牛山への旧道があり、そこに六神石神社の石鳥居があり、そこにも石碑群がある。

上郷に入って左側の稲荷神社のところで、十字路となり、南へ陸前高田市への国道との分岐点がある。古碑は稲荷神社のところに集められているが、その中に道標が一基あり、「右ハけせん道、左ハかまいし道」とある[50]。もとは筋かい向いのガソリンスタンドのところにあったものである。

道は細越字前谷地の伊勢両宮神社[52]附近までは舗装された国道と重なっているが、このところから辻田峠にかかる山道となるので、現国道とはづれて旧道が残っている。旧道も江戸時代の旧道の外に、大正頃の道、明治時代の道と何度か改修の手が施されている。従って、江戸時代の旧道は樹木の中に覆いかくされて、辻田峠の一里塚が漸く旧道の存在を物語っている[53]。番屋で再び現国道と重なる。

番屋から足が瀬までは旧道と国道は重なっているが、足が瀬から旧道は早瀬川沿いに屈曲して走っていたが、国道によって大巾に改修されてしまっている。田面木の一里塚もそのあとを残していない[56]。

仙人峠の麓、沓掛で橋を渡って九十九折の山道にかかるが上り口に石碑があり、更に少し登ると塚と道標がある[58]。仙人峠の麓には洞穴の中に早瀬観音が祀られていた[57]。沓掛の仙人峠の登り口は広場になっているが、軽便鉄道時代「仙人駅」があり、ここに商店があって、一休みして峠にかかったものである。自動車の発達は軽便鉄道では峠越があるので、次第につかわれなくなり、笛吹峠道の利用が盛んとなった。現在は仙人トンネルの開通で再び釜石街道の利用を盛んにしたが、現在自動車はここに止まることもなくすぎるので、商店もなくなった。

。釜石市

仙人峠について、路程記は釜石側の大橋からであるが、「仙人の九拾九曲

と云、拾六丁程登って中仙人と云、道のかたハしに石の御堂有⑫、此所迄大橋より六拾三曲程あり、夫より拾壱丁四拾間程登て仙人峠、仙人の御堂⑩有此辺仙台の嶺つつきにて、高山也……中仙人より此処迄三拾曲程有、五丁程下行て茶屋掛場と云、少行て大久保と云、拾五丁三拾間にて沓掛」とある。仙人峠頂上は標高八八七m、沓掛五五七m、大橋二五四mであるから、沓掛から三百三十m、大橋からは六百三十三mと標高差があり、そこを徒歩か、カゴで登降した。荷物の運般に牛馬を利用したが、それは大変なものであったと思う。昭和二十五年釜石線の全通と、笛吹峠越の自動車道が整備されて、それ以後、仙人峠を越える人もなくなった。従って仙人峠頂上にあった仙人堂も今はなく⑩、石の小祠も解体したままに放置されている⑪。ただ、中仙人の石の水槽⑫が、この峠越に当って、水ない苦しさを物語っている。

大橋に下りた麓、即ち大橋からの登り口の左手に石碑群がある⑬。旧道は現在の陸中大橋駅前の広場に出るが、そこから北へ山手に進むと大橋鉱山で、釜石鉄山第一高炉の建設されたところである⑭。街道は大橋駅前から東南方に進むが、旧道がそのまま改修舗装された道路で昔しの面影はない。

大松には大松の一里塚が一基残存している⑰。南側のものであろうが、それによると、旧道は、現国道の南側住宅のところを通っていたらしいが、その痕跡はない。砂子渡にくると、江戸時代末の砂子渡銭座跡⑱が、街道から、川をへだてた向う側にあった。

洞泉にくると、旧道は現国道の北側とやや小高い山裾を通っていて、その道は甲子町の正福寺につき当る付近まで現存して、通路として利用されている。この旧道沿いの洞泉神社入口に古碑群があり⑳、閃沢には八幡宮がある㉑。石碑は現国道沿いにも集められて立っている。閃沢、大畑、坪内入口の古碑群がそれである㉒㉓㉔。

旧道は現在の正福寺附近で、現国道を横切って、国道の南側に出、旧甲子町を通っていた。正福寺㉕はこの旧甲子町の家並の西端にあったが、何回かの火災で、現在のところに位置するようになった。旧甲子町㉖は道路の真中に中堰があり、手は入れられているが昔しの面影を残している。街道の家並の多いところでは奥州道中でも一関、水沢、仙北町など、中堰があり、遠野でも中堰があったが、今日中堰を残しているのは県内では甲子町唯一つだけである。しかし家並は変っている。甲子町の中程左側に札場があった。

甲子町を出て、旧道は再び国道と重なるが、洞が鼻㉗を通ると、再び国道をそれて、今度は北側の野田家㉘の前を通る。洞が鼻には古碑群や欅の古木があった。欅は本年伐採された。

旧道は現国道と平行したり、重なって、釜石市内に入って行く。七の橋で小川川を渡ったところで、小川山へ行く道との分岐点となる。そこに道標があった㉛。現在、道標は移動して上小川にある。道標には、「右ハ小川山道、左ハ甲子町、遠野へ」とある。

小川への道に折れて少し行って、また親和橋で小川川を渡って戻ったところに体育館と並んで釜石製鉄所史料館㉝がある。

旧道は釜鉄の楽山荘の付近で、国道をそれて、北側昭和ログランドから中妻町を通って、鈴子町大渡町大町へと出た。楽山荘は大天山観音寺跡㉞で、大正五年釜石製鉄所が購入したもので、庭園はもとのまま、生かして釜鉄の迎賓用の施設として利用している。そのうしろに八雲神社がある。八雲神社は建久年間の創建と伝えられ、尾崎神社と共に釜石では古い神社である。

㉟ この街道は、仙人峠の向う側釜石市の大橋から釜石の鈴子まで、大橋鉄山の鉱石を運搬するため明治十三年より鉄道の運転がなされていた。それに見合うため、花巻より遠野市仙人峠の麓まで軽便鉄道が大正四年に完成して運転を開始することになったが、仙人峠にトンネルを開通させることは当時出来なかった。そこで人は仙人峠を歩いて越し、荷物は鉄索を敷設して運搬したが、仙人峠を越る道は大変であったので、笛吹峠越の自動車道路の開通は人の動きを変えることになった。

第六節　釜石街道沿いの文化財・その他

〈遠野市〉

㊹　前川原の古碑群

享保十六年の「庚申青面金剛尊」の碑をはじめとして十数基の碑が二か所にまとめられてある。

㊺　関田の一里塚と関田橋たもとの石碑群

関田橋たもとにもと旧道沿にあった石碑を一か所にに集められている。年号のあるものでは文化四年（一八〇七）の「念佛供養塔」が古い。

㊻　臼館跡

阿曽沼氏の家臣菊池成景の居館といわれている。山城で、頂上は平坦で的場跡、井戸跡など残っている。

㊼　関口の古碑群

幕末のものが多い。

㊽　曹源寺と板沢館跡

曹源寺は滴水山曹源寺で曹洞宗、天正二年（一五七四）開山と云われる。板沢館も天正年間板沢氏が築いたといわれる。

㊾　赤川の一里塚と駒形神社

赤川の一里塚の西南方に少しはなれて駒形神社がある。駒形神社には江戸時代の棟札や絵馬がある。

㊿　稲荷神社前石碑群と道標

釜石街道と気仙道への国道の交叉する十字路の西北に稲荷神社があり、その傍に古碑が集められている。その中に元文三年（一七三八）の道標がある。

右ハけせん道
南無阿弥陀佛
左ハかまいし道

側面　元文三戊午年

51　慶雲寺

深沢山慶雲寺。曹洞宗、天正年間の創建と伝えられる。境内に樹令四百年ほどの杉の大木がある。

52　伊勢両宮神社と石碑群

参道入口に明和元年（一七六四）、天明八年（一七八八）の餓死者供養塔あり。

53　辻田峠の一里塚と石碑群

約一三mはなれて二基が並んで山林の中にある。径約一〇mで、高さ二〜三mある。この近くに、寛政一〇年（一七九八）の念佛供養塔などある。

54　瓜ヶ森館跡

阿曽沼時代の館で、土塁や空濠などある。

55　日出神社

阿曽沼時代に勧請、もと祭神は薬師如来と云われる。

56　田面木の一里塚

大正十一年の調査の際には二基残したが、道路や畑で破壊された。この畑を「塚の畑」といっている。

57　早瀬観音（沓掛観音）

仙人峠の麓、早瀬川に臨んで、自然の石灰岩洞穴があり、洞穴内に観音を安置して祀ってあった。

58　片岩の一里塚と石碑

仙人峠を登った四〜五〇mのところに一里塚が一基残っている。高さ約二mで、径約八mである。そのわき明治時代の道標がある。

「至遠野町　四里廿町、至仙人峠二十一町」
「里程標、十七里」
「上閉伊郡上郷町大字細越字片岩」
「岩手県」
と角様の四面にそれぞれ刻まれている。
また仙人峠登り口の一つめの曲りのところに延享元年（一七四四）の「南無阿弥陀佛」、天明八年（一七八八）の「大道體廣無易」の碑がある。
〈釜石市〉
⑩　仙人峠頂上と仙人堂
仙人峠頂上には仙人像を安置した仙人堂とその近くに峠の茶屋があったが、現在は共になく、仙人像だけが遠野市上郷町の仙人神社に安置されている。
「　　畠山京介作
像の背面に　光清山□遍安圓仙人大覚
宝永六己丑天　別当三光房
八月二十一日　勘七　」
高さ五五cmの像である。
⑪　仙人峠頂上の石の小祠と石碑群
仙人峠頂上には文化五年釜石の佐野与市建立の小祠があったが、昭和五十三年の宮城県沖地震で解体した。小祠内にあった石に、「仙人阪堅牢擁護神」（現在釜石市立図書館に保管）とある。また仙人堂の傍には石佛塔二基（一基は高四十六cmで享保十五年の銘あり、一基は高さ六十三cm）あったが、現在前記の仙人神社に移されている。その他寛政十年と文化五年の石碑がある。
⑫　中仙人の石の水槽、石の小祠
「文化二年乙丑八月開水　釜石浦佐野忠治忠義」と刻まれた石の水槽がある。上部は一一九cm×六八cmの長方形で、高さ四五・五cmある。三百四十五間の樋で水を満たし旅人に給水の便をはかったものである。
⑬　大橋登り口の石碑群
「馬頭観世音」二基、「牛馬諸霊塔」一基、「駒形神社」一基と庚申塔二基で、牛馬関係の多いのが注目される。
⑭　大橋高炉跡と山神碑
安政四年（一八五七）第一高炉跡のある大橋鉄山で、大島高任、道太郎父子の顕彰碑もある。
⑮　鉱山の古碑群と新山坑磁石岩跡
鉱山の鉱石運搬に使役した牛馬を供養した碑と長さ三丈、巾四間の磁石岩があったが、現在昭和十九年五月落盤によって砕かれてない。
⑯　鋳銭山
文化十二年九月大槌代官所役人の検分によって甲子村の八十四人が検挙された。
⑰　大松の一里塚
小笠原迷宮「岩手県に於ける古墳分布の概況」（人類学雑誌四〇―一一）に大松古墳としてあげられているが、江戸時代の絵図にこの場所に一里塚の記号が記されている。南側の一基が一部欠けているが残存し、径七m、高さ一・六mである。
⑱　砂子渡銭座跡
⑲　一渡古碑群
寛政十二年（一八〇〇）の「庚申塔」をはじめとして、六基の江戸時代の古碑が集められている。
⑳　洞泉神社
郷村誌に日月堂と称し、大永五年（一五二五）の勧請と云われる。明治になって洞泉神社と改めた。街道からの入口に古碑群がある。

㉑ 関沢八幡宮

宝暦十二年（一七六二）の棟札がある。絵馬が多く保存されている。

㉒ 関沢・大畑境の古碑群

元禄四年（一六九一）の山祇の碑をはじめ江戸時代の石碑が十二基集められている。

㉓ 大畑古碑群

ここにある碑は釜石街道から分れて大畑橋を渡り、松倉峠を越えて、伊達領唐丹に行く追分付近にあったもので、江戸時代のものは三基である。

㉔ 坪内入口の古碑群

この付近のものを道路改修の際集められたもので、江戸時代のものは、天明六年（一七八六）の「庚申行満塔」だけである。

㉕ 正福寺

釜石山正福寺。曹洞宗。もと甲子町の西はずれにあったが、三度も火災にあい、現在のところになった。天正八年（一五八〇）創建とも、寛永九年（一六三二）創建とも伝えられる。

㉖ 甲子町宿場

むかしの街道の道路の中央にあった中堰が、今日も残って、道路の中央を流れている。堰の巾七〇cmで、両側の道巾は四mである。札場は町並の中央北側の佐々木テル氏宅の前にあった。慶長十六年（一六一一）町が出来たと伝えられる。

㉗ 洞が鼻と欅の古木

欅の古本は国道拡張工事によって伐採されて今はない。

㉘ 野田家

この地方の開発地主である。この地方の多くの資料を所蔵している。

㉙ 向定内荒神神社

㉚ 柏館と定内の古碑群

中世の山城である。その麓の定内に古碑群がある。享保七年（一七二二）「南無阿弥陀佛」が最も古い。

㉛ 小川の道標

記念銘はないが、江戸時代のものであろう。

もとは、釜石街道と小川新道の分れにあった。小川新道は釜石の富豪鈴屋佐野与次右衛門が、文政七年（一八二四）六月、藩の許可を得て開通したもので、遠野へは仙人峠越えより近く、一時相当利用された。

㉜ 小川観音堂

江戸時代初期の創建で、多くの文化財を所蔵していたが昭和五十三年三月の火災で殆んど焼失した。

㉝ 釜石製鉄所史料館

㉞ 観音寺跡と八雲神社（本文参照）

㉟ 八幡館跡

中世の山城で、阿曽沼家臣野館宮内の居城とも、葛西方道出雲とも伝えられている。

遠野市　万通寺

遠野市　前川原の石碑群

遠野市　下関の石碑群

遠野市　下関の茶屋（民家に茶屋の屋号があり、その手前の道が旧道）

遠野市　関田の旧道跡

遠野市　関田の石碑群

遠野市　関田の一里塚跡

遠野市　赤川の一里塚

遠野市　上郷町の気仙への道の分れ

遠野市　分れにある道標

遠野市　国道わきに残る旧道

遠野市　細越の伊勢両宮神社

遠野市　伊勢両宮神社附近の旧道

遠野市　辻田峠に向う旧道

遠野市　辷田峠の一里塚

遠野市　辷田峠の一里塚

遠野市　番屋のところへ出る旧道

遠野市　田面木の一里塚跡

遠野市　早瀬観音の岩屋

遠野市　仙人峠への登り口

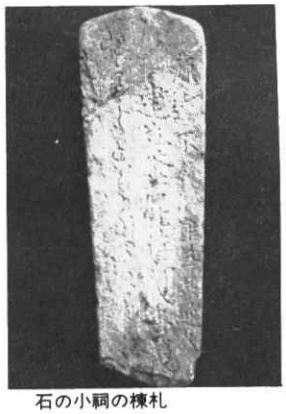
遠野市　仙人峠への山道

遠野市　仙人峠の一里塚と道標

釜石市　昭和17年以前の仙人堂

仙人堂に安置してあった仙人像

釜石市　仙人峠の石の小祠



石の小祠の棟札

釜石市　仙人峠頂上の石像群

左石像の拡大写真

釜石市　中仙人の石の水槽

釜石市　大橋からの仙人峠登り口

釜石市　大橋の登山口の石碑群

釜石市　大橋鉱山の大島高任の記念碑

釜石市　大松の一里塚

釜石市　一渡の石碑群

釜石市　洞泉神社前の石碑と旧道

釜石市　関沢附近の旧道

釜石市　関沢・大畑境の石碑群

釜石市　正福寺

釜石市　甲子町の中堰のある旧道

釜石市　柏館跡

釜石市　小川の道標

釜石市　小川観音堂

第七節　笛吹峠道・その他

遠野から釜石または大槌へ行く道路として、前に述べた大槌街道と釜石街道の外に、笛吹峠越で釜石または大槌へ行く道路と釜石新道（小川新道）を落すことは出来ない。これについて遠野市分の現地調査が出来ていないので、釜石市分が主となるので、その他として一括述べることにした。

笛吹峠越の道路は、界木峠を越える「大槌街道が公用道路として、土地の人々から武士街道と呼ばれていたが、これに対し笛吹街道は遠野と大槌あるいは釜石を結ぶ街道として、大槌街道以上に物資の交流が盛んであった」（武山利一氏の記述）とあるように、藩政時代に相当利用されていた。その上、昭和三十四年有料道路仙人トンネルが開通して釜石街道が通ずるまで遠野と釜石または大槌とを結ぶ自動車道として大正十三年から開通して、釜石街道以上に利用され、軽便鉄道さえ無用なものとした重要な街道である。従って、現在も県道となっている。勿論、自動車の通ずる道路とし整備舗装されている。県道は旧道と重なっているところもあるが、山地に入った部分は藩政時代の旧道と別のところに開通している。それについて、遠野市分は簡略に、釜石市分を主として述べる。

笛吹峠道は上組町の舛形を出て、釜石街道を東に進み、鶯崎を過ぎて晴山への道に進むところで、釜石街道と分れる。旧道は現在の県道より少し東に分岐点があった。それから長谷場—糠前—舘石—比尻田—小水内—大草里と旧道と県道は重なっているが、大草里のはずれで、旧道は河内川の南側に沿って東北方に進み、山地にかかる。八八二mの笛吹峠の頂上を目指して急な斜面の山道を進み、途中県道を横切って、現県道の西側、山の頂上のほぼ尾根つたいに笛吹峠の頂上に出た㊱。県道改修後山道になってからは、現在通る人もないので、道は雑草に覆われて、道の体をなしていない。

笛吹峠を越えて、道はほぼ東方に進み、再び県道と交叉して、県道の両側に出て急な斜面を坂元部落目指して下りて行くが、坂元部落までの道は雑草に覆われたり、山林となって通る人もなく、注意しないと明らかでない。坂元から青ノ木までは現在も旧道が利用されているのではっきりしている。青木の東方に橋野高炉跡㊲がある。

旧道は青ノ木分校のところで、県道と一諸になって大口まで進む。大口から旧道は東へ小峠を越えて能舟木への道を進む。この道は現在も利用されているので、舗装はされていないが、自動車の通行も可能である。能舟木から中村で再び県道と合する。それからの旧道は県道として改修舗装されている。中村には熊野神社㊳がある。

中村で県道に出ると、左手の山麓に林宗寺㊴がある。江戸時代道路開鑿で有名な牧庵鞭牛和尚が住職となっていた寺である。林宗寺の門前から一〇〇mほどのところに、小枝街道との分岐点があり、道標が立っている㊵。道標は「右ハ両石　左ハ大槌」とあり、年号はないが江戸時代のものである。小枝街道は東北方に古里—横内を経て種戸坂に出て、大槌街道と一緒になるもので、旧道が良く残っている。古里では釜石市で天然記念物に指定している大杉㊶があり、横内には古碑群㊷がある。

中村から釜石への道を東に進むと沢部落の左手に鞭牛隠居屋敷跡㊸があり、古碑が立っている。右側には滝沢神社㊹がある。街道を橋野川沿いに進むと「つるぎの峻」と云われる、山が橋野川に迫っている難所がある。現在県道は山麓を削取って通じているが、もとは山越をしたが、それも岩石の凹凸の多い難路であったものを鞭牛が通り易く、道を普請したところといわれ、その記念の碑や、その後道供養をした碑などが立っている㊺。「つるぎの峻」の鼻を曲った、旧道の山の登り口のところに量玄和尚の布引観音道開削の碑が立っている㊻。

街道を更に進んで、上栗林の板橋の茅沢林道との分れに古碑群がある㊼。庚申塔の台石に三猿が浮き彫にされているのが注目された。それから少し行くと『獄中記』で有名な三浦命助の生家がある。現在の住宅は建て直されて

いる。その隣りに布引観音堂がある㊽。

更に進んで道々の橋野川を隔てた対岸の砂子畑に「明神かつら」があり㊾釜石市の天然記念物に指定されている。それから少し入ったところに砂子畑銭座跡がある㊿。

県道になっているところは完全に舗装修理されていて旧道の面影は全くなく、新田で浜街道の国道に合する。国道と笛吹峠の分岐点は、昔しは現在の分岐点の少し北に寄ったところらしく、その分岐点に古碑群がある。

小川新道については、当初記述する予定になかったが、地区調査員武山利一氏の指摘もあり、これについて、書かれた資料も渡されたので簡単にふれることにする。『昭和五十三年度釜石市指定文化財調査報告書』（昭和五十四年三月文化財調査報告書第十集釜石市教育委員会）に板沢幸雄氏の「釜石新道図」に精細に述べられているので、それによって概要を記述する。

釜石で海老商を営んだ豪商鈴屋佐野与次左衛門が、沿岸と内陸部との交易を便ならしむるため、仙人峠にかわる新道開削を考え、小川口から遠野へ越える新道をつくることを藩に上申した。それは文政五年（一八二二）六月に許可を得るところとなり、工事に入り一年がかりで、遠野、宮古方面から人足をあつめ、費用六百三十貫をかけ翌七年六月に完成をみるところとなった。

この新道は、小川口から奥の「トノゴヤ」というところから、片羽山の山腹を通り、赤岩をすぎ、遠野の佐比内に至る道路で、小道（一里六丁）にして、五三里四丁四十九間の距離で、仙人峠を通る路程より、十七里余の短距離で、時間もはやく道筋も楽であった。したがって、開通後は商荷物の大方はこの新道を利用する者が多くなった。

その結果、甲子町の交通経済にも影響を与える事態にまでなったが、またいつの頃からか衰微して行った。

この道の絵図が残っている。それに記されている、道筋の地名を遠野側から記すと次の如くである。

遠野町―是より新道入口、青笹村関田（註1塚あり）―左比内村―水口ト云（註2塚あり）―是より新道普請場―巻の内―新山野―猫肉野・峯平（塚あり）―赤岩―大槌・遠境楢木岱ト云（塚あり）・沼ノ袋滝アリ―甲子町・虚空蔵沢ト云（塚あり）・片羽山―是所瀧有―是茅ノ―所々呑水有―是より大木立―萩岱（塚あり）―白水沢―トコノヤと云―わらひ野―野（塚あり）―小川村、桃木渡―小川村―是迄新道―新板橋、釜石湊・甲子村堺・中島・永出ト云―八幡渡―大渡り―釜石湊

註1釜石街道の関田の一里塚（釜石街道）

註2赤川の一里塚（釜石街道）

第八節　笛吹峠道沿いの文化財・その他

㊱笛吹峠頂上

旧道は笛吹峠の頂上附近を通るが、現在の県道は、山腹の斜面に道をつけ尾根の鞍部を越えている。

㊲橋野高炉跡

大島高任が大橋と共に最初に高炉を築いて製鉄を行ったところで、国指定史跡である。

㊳　熊野神社

中野部落は江戸時代の中心地で、この神社は天文三年（一五三四）の勧請と伝えられる。橋野村の鎮守神である。

㊴　林宗寺

鶏石山林宗寺。曹洞宗。慶長二年（一五九七）に早栃に創建されたが、六世鞭牛和尚が寛延二年（一七四九）この地に遷した。

㊵ 小枝街道の分れと道標

鞭牛和尚開削道路の最初のものといわれる。俗に寺詣り街道ともいわれている。

㊶ 古里の御神楽杉

周り約六m、高さ約三〇mで、樹令四百年と相定されている。

㊷ 古碑群

安永四年（一七七五）の庚申塔や念佛供養塔などがある。

㊸ 鞭牛隠居屋敷跡

太田林の与三郎から鞭牛が寄進をうけて出来たもので、鞭牛はここで坐禅往生したと伝えられ、坐禅石がある。

㊹ 滝沢神社

祭神は大山祇尊。寛文年間の勧請といわれる。明和三年（一七六六）の棟札がある。

㊺ 古碑は鞭牛の道普請に関係したものである。

安永六年
道普請林宗六世
八月八日

高さ　六五cm

牧庵鞭牛

高さ　五三cm

㊻ 布引観音奥宮への参道開削碑

道師不動□
世話人　久兵衛
喜八
文化四丁卯年
道供養塔
九月吉祥日
肝煎　孫右ェ門
発起　孫市

高さ　七〇cm

栗林村常楽寺量玄叟開闢
化縁千手布引観音道
寛延四辛未年三月廿五日
別當六右衛門

高さ　一一六cm

㊼ 板橋の古碑群

文政四年（一八二一）文政六年の庚申塔などある。

㊽ 三浦命助は三閉伊一揆の指導者で、その責任を問われて、投獄され獄死した。布引観音堂には文政五年作の千手観音や、元禄五年の正観音が安置されている。栗林村の人々の古くからの信仰を集めている。奥の宮は㊻参照。

㊾ 明神かつら

中心の樹幹の周囲より多数の枝が成長し、所謂「千本かつら」に該当する。高さ三四・四八m、枝巾三七・四mある。

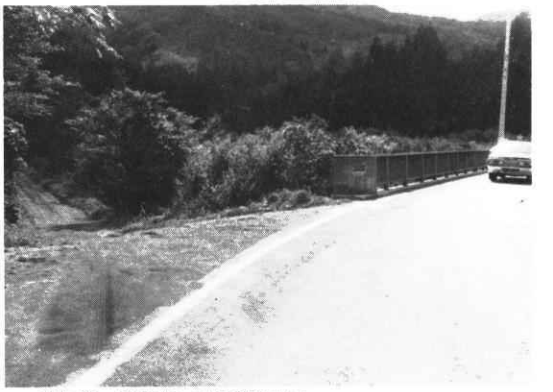
㊿ 砂子畑銭座跡

慶応三年、砂子田源六が幕府の認可を得て鉄銭を鋳造したところ。

釜石市　笛吹峠頂上の旧道

釜石市　橋野高炉跡

釜石市　青ノ木の旧道


釜石市　能舟木への旧道の入口

釜石市　中村附近の旧道

釜石市　林宗寺

釜石市　小枝街道への分れ

釜石市　小枝街道分れの道標

釜石市　古里の御神楽杉

釜石市　沢の鞭牛隠居屋敷跡

釜石市　つるぎの峻の県道
（旧道はこの岩壁の上を通った）

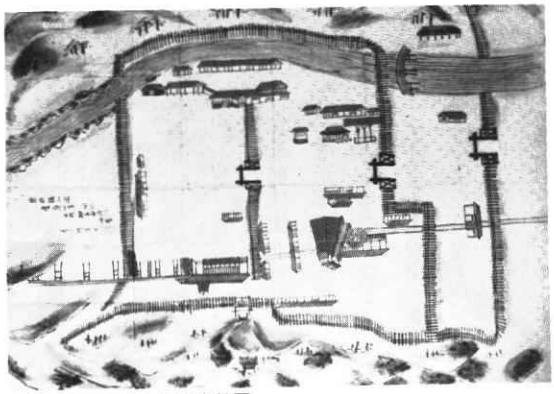
釜石市　つるぎの峻にある道供養碑群

釜石市　量玄和尚開削の山道と記念碑

釜石市　板橋の庚申塔

釜石市　三浦命助の生家跡と布引観音

釜石市　明神かつら



釜石市　砂子畑銭座絵図

釜石市　浜街道から笛吹峠道への分れ

遠野市　鍋倉城跡遠景

遠野市　鍋倉城跡（南部神社への石段）

遠野市　遠野市立博物館

遠野市　博物館前にある道標（綾織より移転したもの）

釜石市　釜石製鉄所史料館

釜石市　史料館内部

第三章　街道沿の公開施設

一、大迫町立　山岳博物館

＝大迫町
一階コンクリート、二階木造＝

国の特別記念物「早池峯山高山植物帯」は大迫町、遠野市、川井村にまたがっているが、蛇紋岩山地特有の乾性高山植物群落が大迫町側にある。また大迫町からの岳口が早池峯山登山に一番便が良い。それがこの地に山岳博物館を開設した理由と考えられる。高山植物の中でも、ハヤチネウスユキソウはこの山のシンボルとして親しまれている。これがアルプスのエーデルワイスとよく似ているところから、アルプスの山々に囲まれたオーストリアのベルンドルフ町と昭和四十年友好都市の縁を結び、それを記念して町の中央にある小高い丘を「ベルンドルフの丘」と命名し、ここにオーストリアの民家を模した記念館を建設し、山岳博物館として、昭和四十六年開館した。

館内には早池峯山系を中心とした地学、植物、動物等の資料を集収保管し、その一部を展示しているが、記念館的要素が強く、博物館自体の展示は面積内容共貧弱である。

二、遠野市立　博物館

＝遠野市東館町三―九
鉄筋二階建、展示面積八五五㎡＝

この博物館については、岩手日報紙上に、「市立図書館と併設の遠野市立博物館は六月一日に開館した。慶応大学名誉教授、池田弥三郎氏の監修で、「遠野物語」を構成の主体とした民俗博物館、視聴覚に訴える展示方法が多く、見学者から好評。また図書館の併設は「博物館の資料と図書館の文献が相互に活用できる。」という利点があって全国的に注目を集めている。」（五五・一二・二二夕刊）と評されているように従来余り見られない展示方法で、大阪の民族博物館の展示方法をとり入れている。

展示第一室は遠野物語の世界。第二室は遠野の自然とくらし。第三室は遠野の民俗学となっている。なお特別展示の試みもなされ、調査で訪ねた時に丁度、第二回特別展として、「遠野のオシラサマ」の展示がされていて、見ごたえのある内容であった。とにかく一度は見学するに価する内容をもっている。

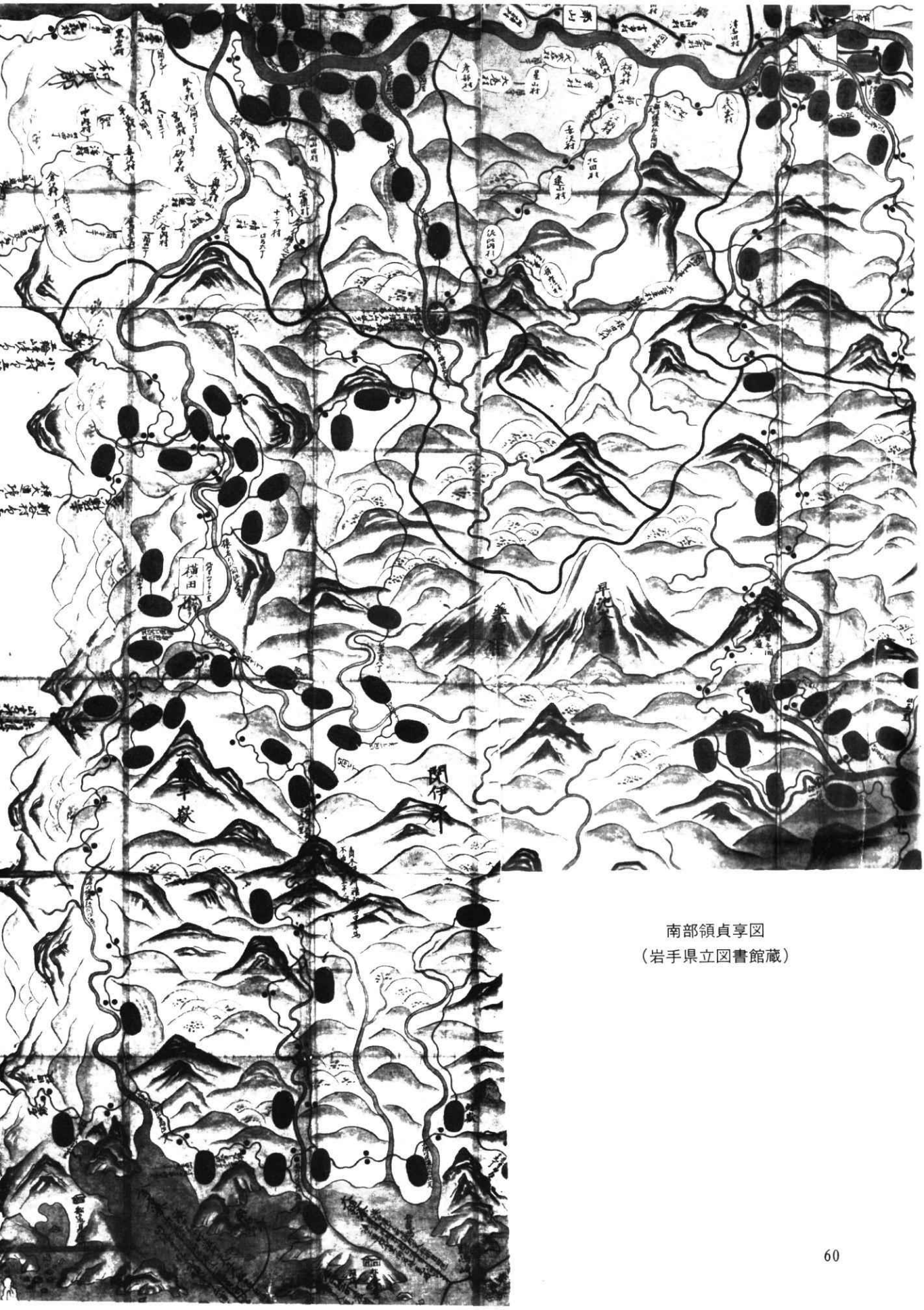
三、釜石製鉄所史料館

＝釜石市小川町釜石製鉄所能力開発センター内
鉄筋コンクリート建物一階部分＝

安政五年の大島高任による高炉の初出銑品をはじめ、その当時の製鉄の状況を物語る絵巻にはじまって、今日までの釜石製鉄所発展の歴史を実物や写真によって幕末、明治、大正、昭和と順序よく整理されて展示されている。釜石製鉄所の歴史を調査するには是非訪れる必要のある資料が保管されている。昭和五十四年十月に開館した。現在、保管史料を展示するのに、未だ狭いので二階も利用して、展示室を拡げる計画とのことである。

第四章　あとがき

大槌・釜石街道としたが、盛岡から大槌または釜石に行くまで、途中通る市町村は盛岡市からはじまって、都南村、紫波町、大迫町、宮守村、遠野市、大槌町または釜石市で、三市三町二村の八か市町村に亘り、その上内陸部の中心遠野から海岸への道路は主要なものが三つあり、それに小川新道を加えれば、四街道となり、奥州街道の岩手県分以上の内容をもっていると考えられる。殊に遠野市と釜石市は、行程も長い上に四街道に亘るので、勤務の閑を見て出来る内容のものでなく、昨年まで行った調査と比較にならない内容をもっていたことに、この報告を書いていて気付いた。従って、遠野市など文化財、その他のところで、地区調査員の調査記述して報告した内容を相当割愛したのは、刷上り頁数を考えてのことで、申訳なく思っている。それでも当初予定した三倍の頁数になったと考える。その点、一部の道路についての報告がなかったのは心残りであるが、やむを得ないとも考えている。また機会があれば補足したい。しかし、一応出来るだけの最善をつくして、一応まとめあげたことを述べて、あとがきとする。

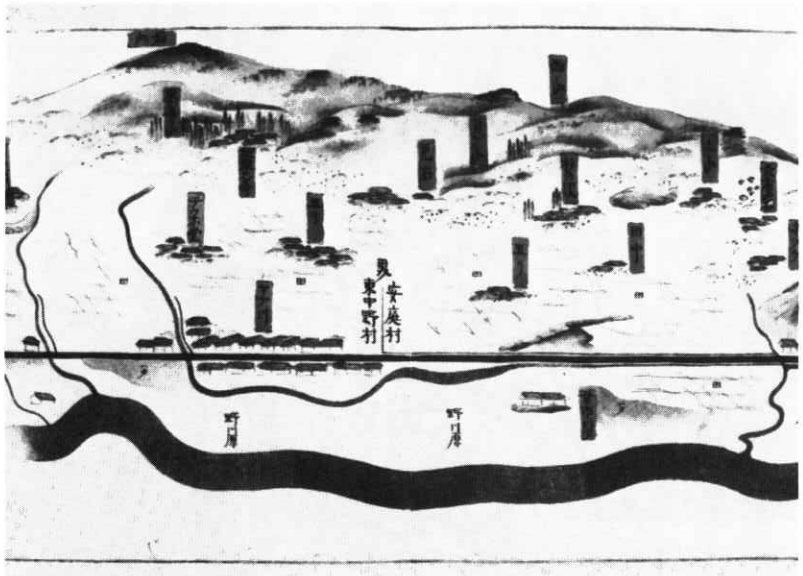


南部領貞享図
（岩手県立図書館蔵）

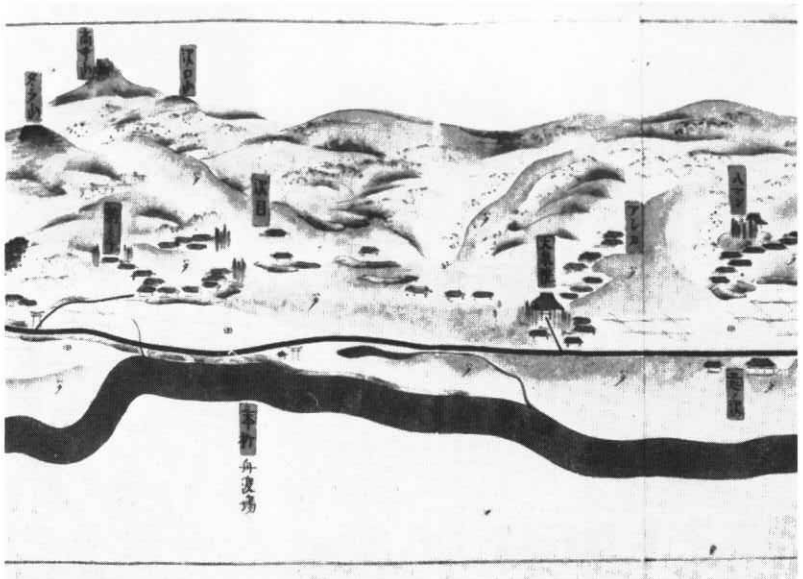
三閉伊道中図抄

（盛岡市中央公民館所蔵）

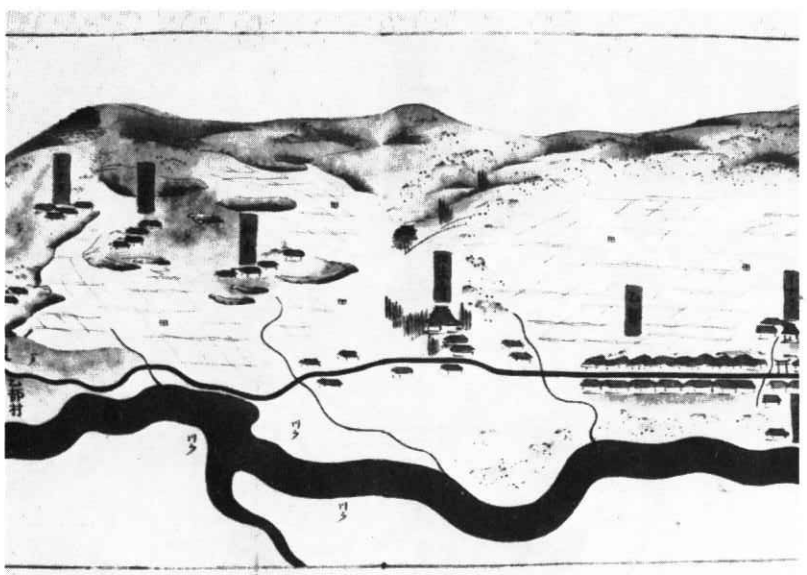
（盛岡→釜石に編集を変えている）
幕末文化文政頃の作と考えられ、三巻もののうち
三巻の44図のうちから22図を抜粋した。



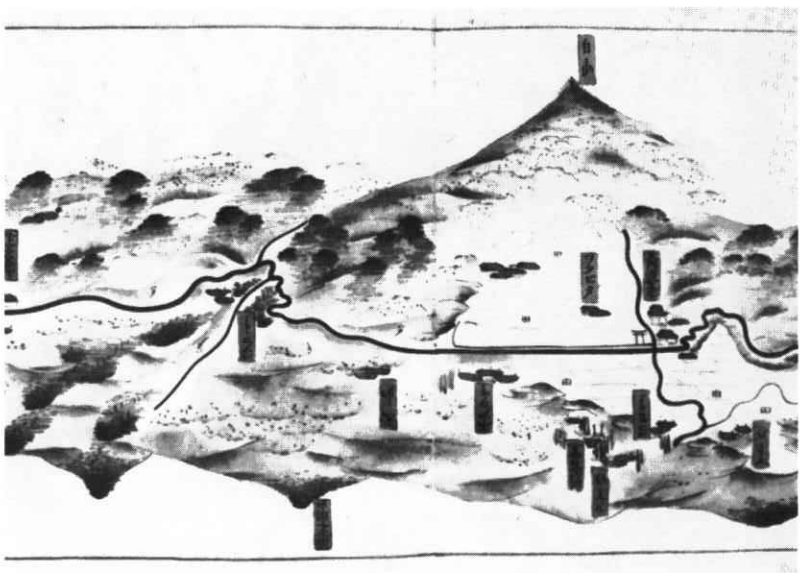
1 盛岡市　築川・安庭附近



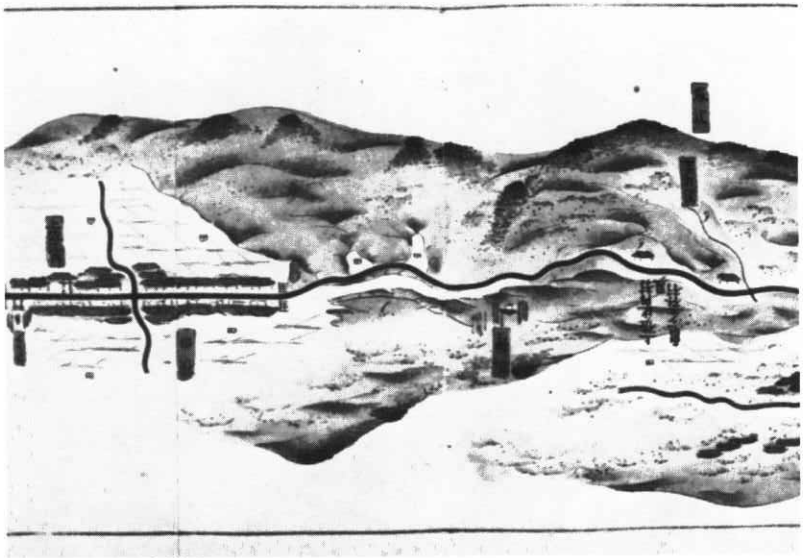
2 都南村　三本柳渡し場附近



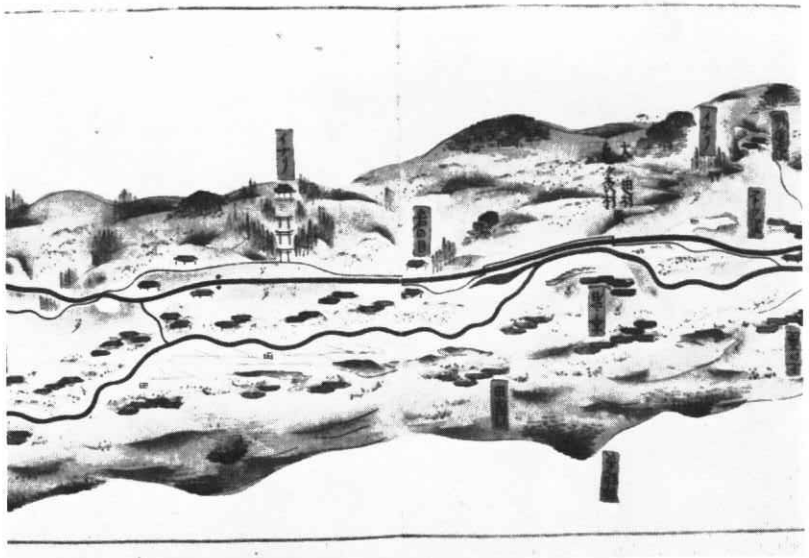
3 都南村　乙部附近



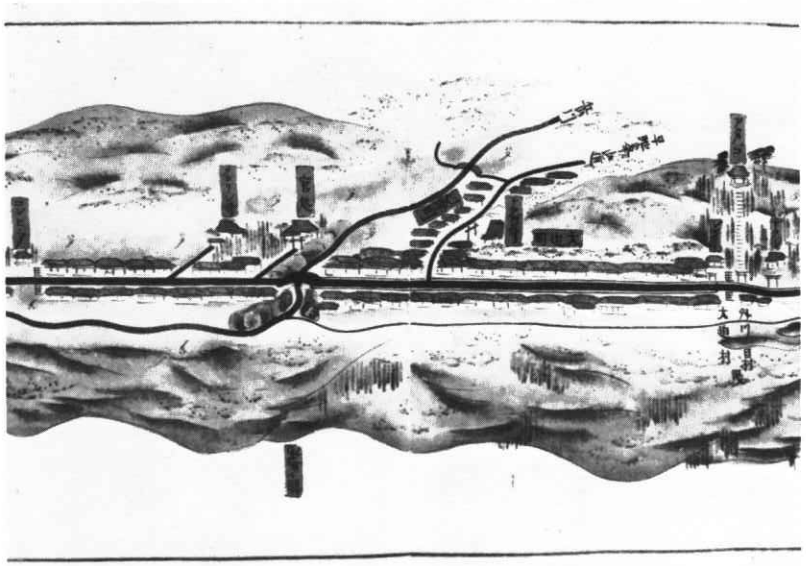
4 紫波町　八掛附近



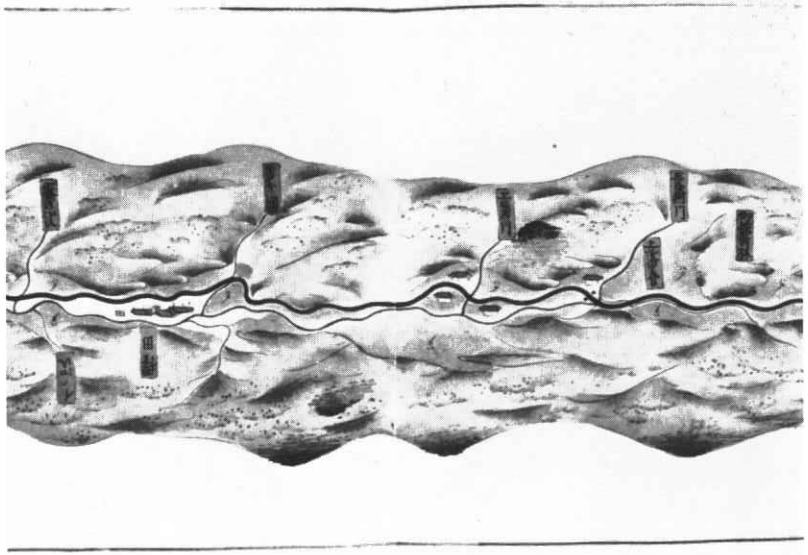
5 紫波町　佐比内附近



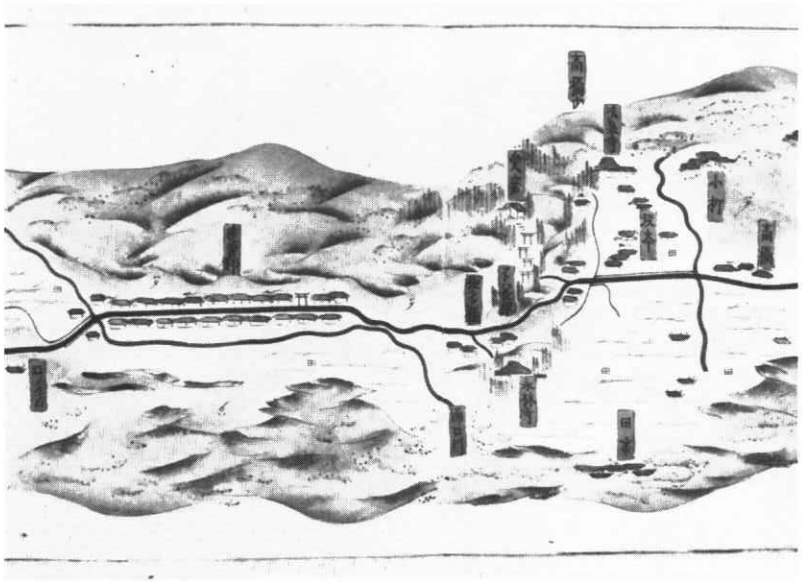
6 大迫町　岩の目の一里塚附近(一里塚の印あり)



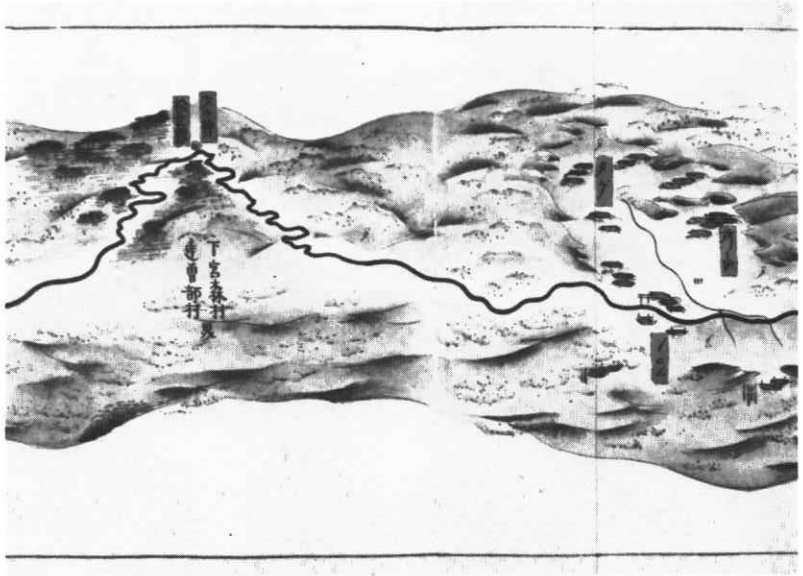
7 大迫町の中心部



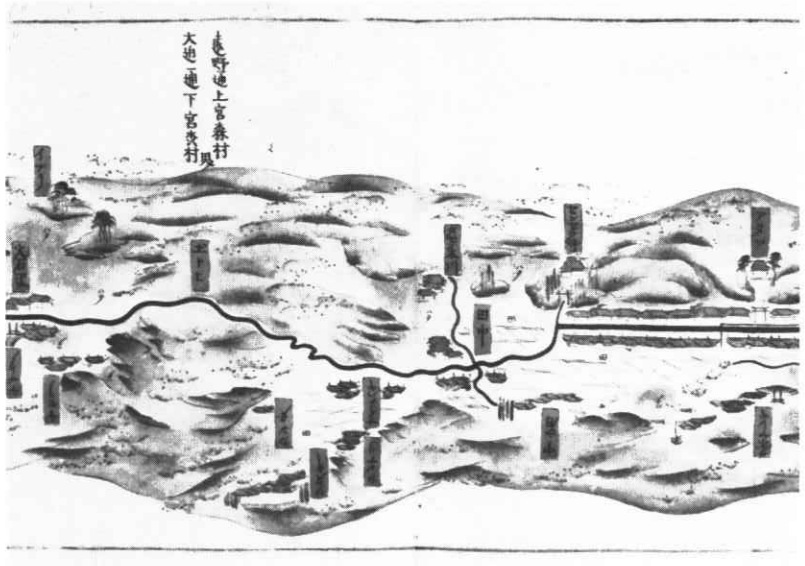
8 大迫町　上落合の一里塚附近(一里塚の印あり)



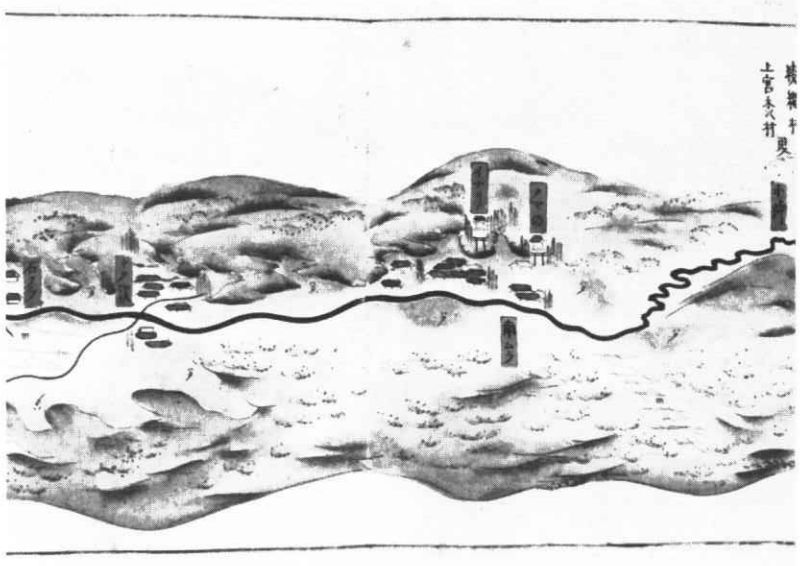
9 宮守村　達曽部附近



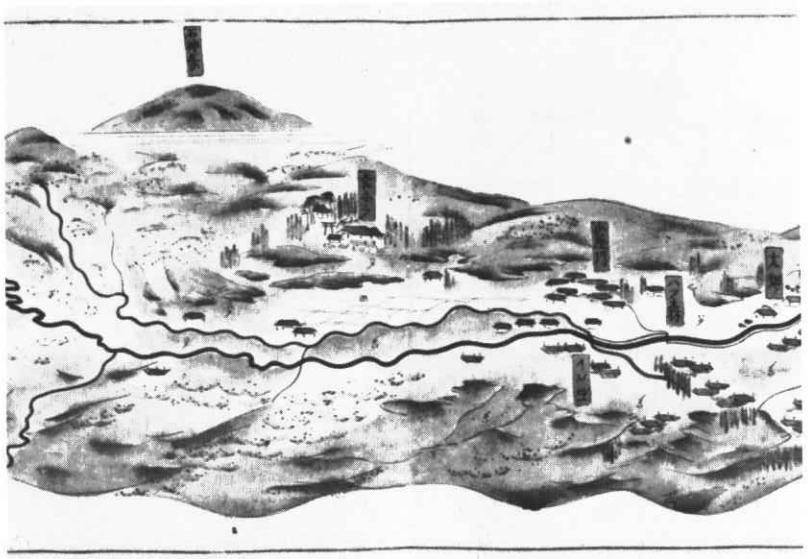
10 宮守村　礫峠附近



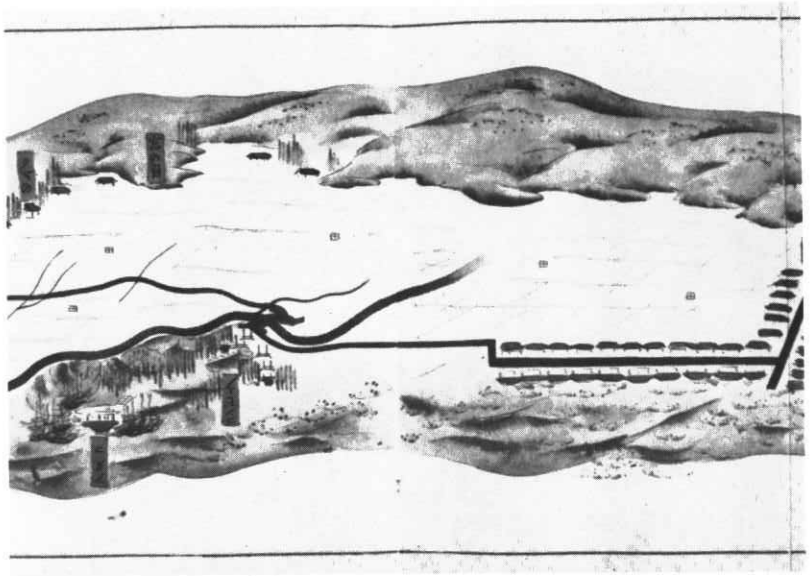
11 宮守村　火石沢より上宮寺まで



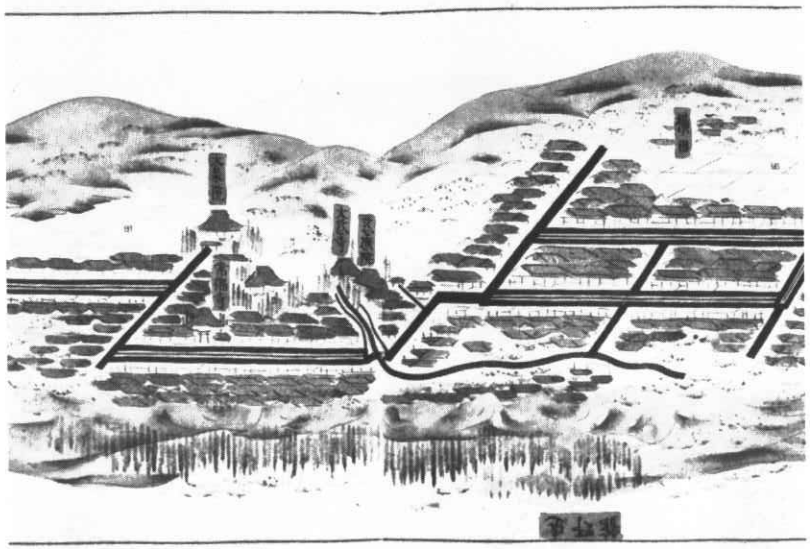
12 宮守村　石倉から小峠まで



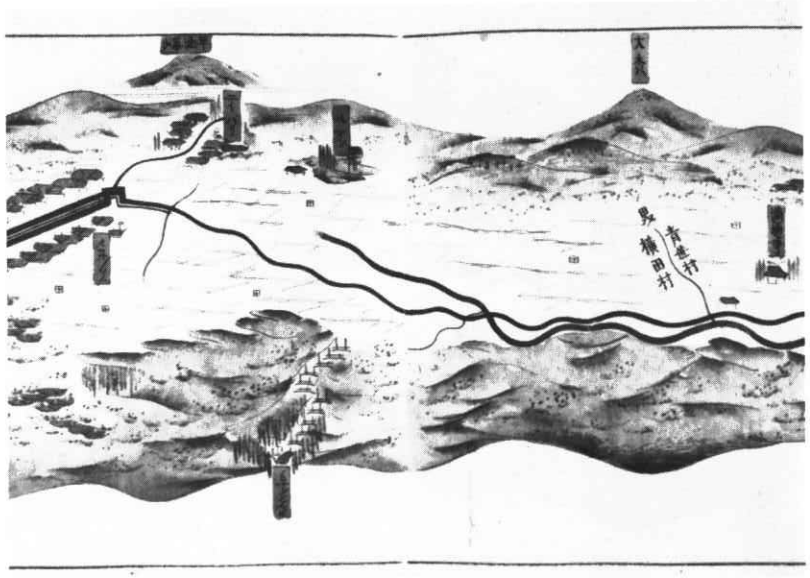
13 遠野市　綾織・千葉家の附近



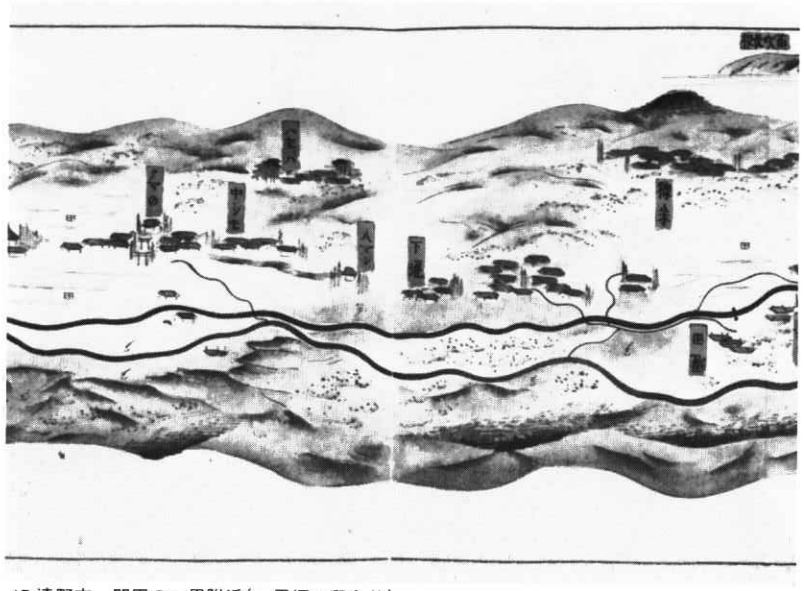
14 遠野市　愛宕神社から下組町



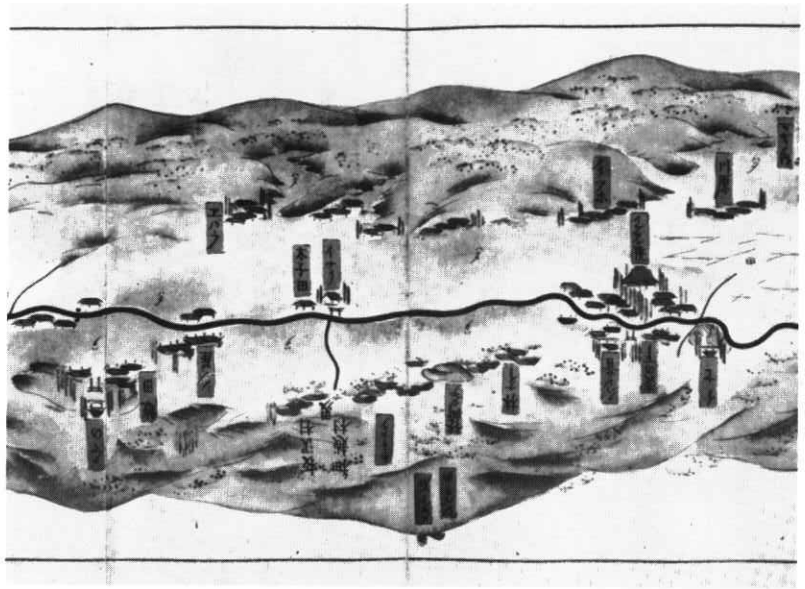
15 遠野市　遠野町の中心部



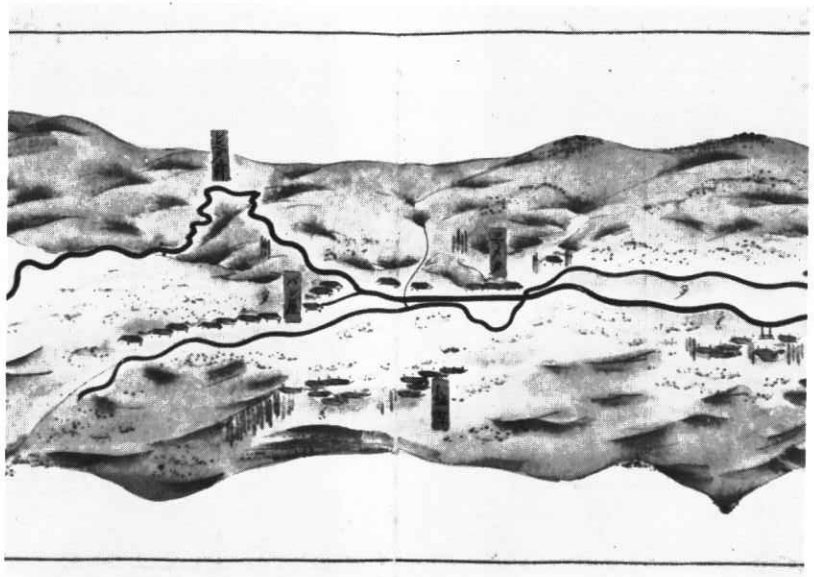
16 遠野市　上組町舛形から青笹へ



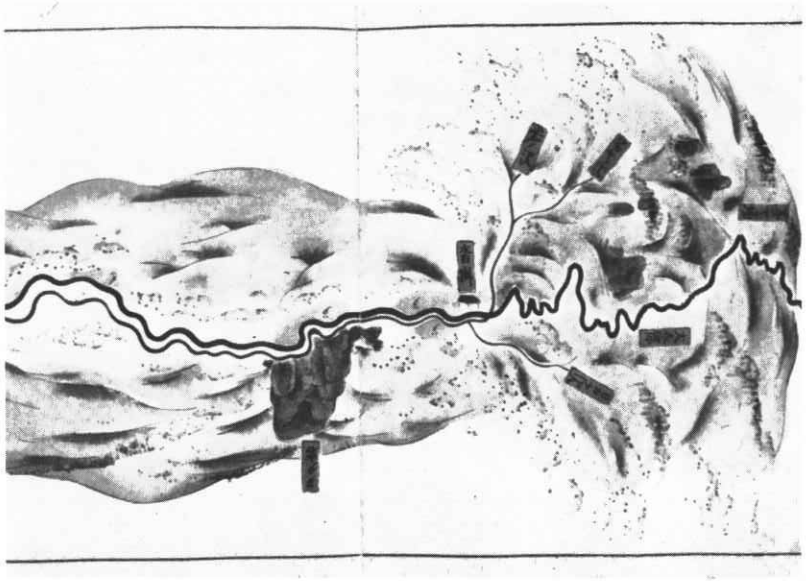
17 遠野市　関田の一里附近(一里塚の印あり)



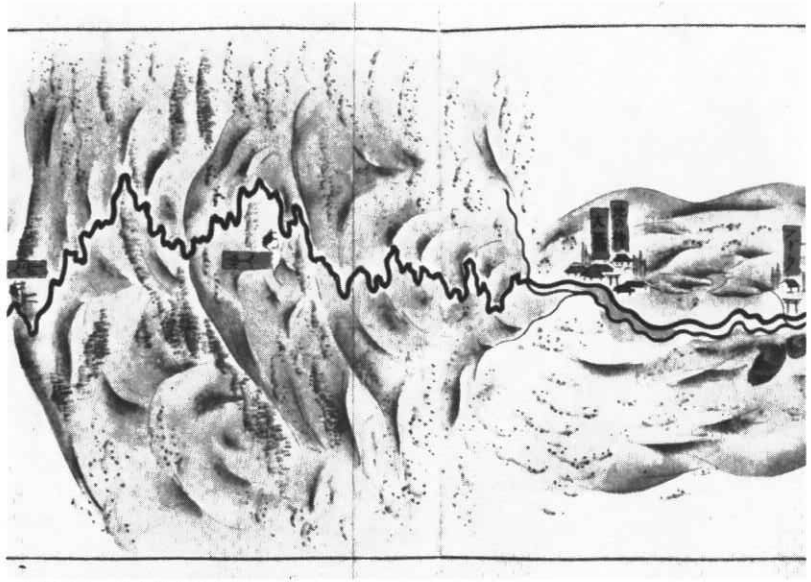
18 遠野市　赤川の一里塚附近(一里塚の印あり)



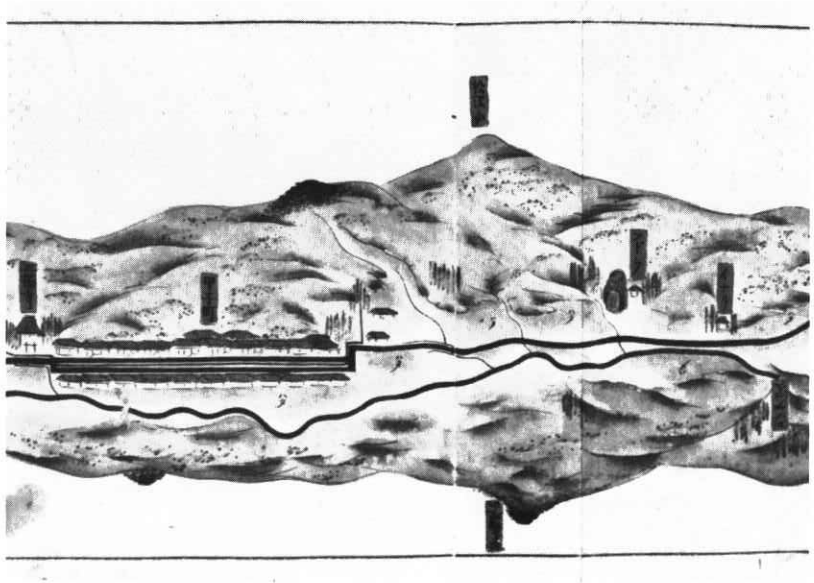
19 遠野市　辻田峠と一里塚附近(一里塚の印あり)



20 遠野市　沓掛から仙人峠へ

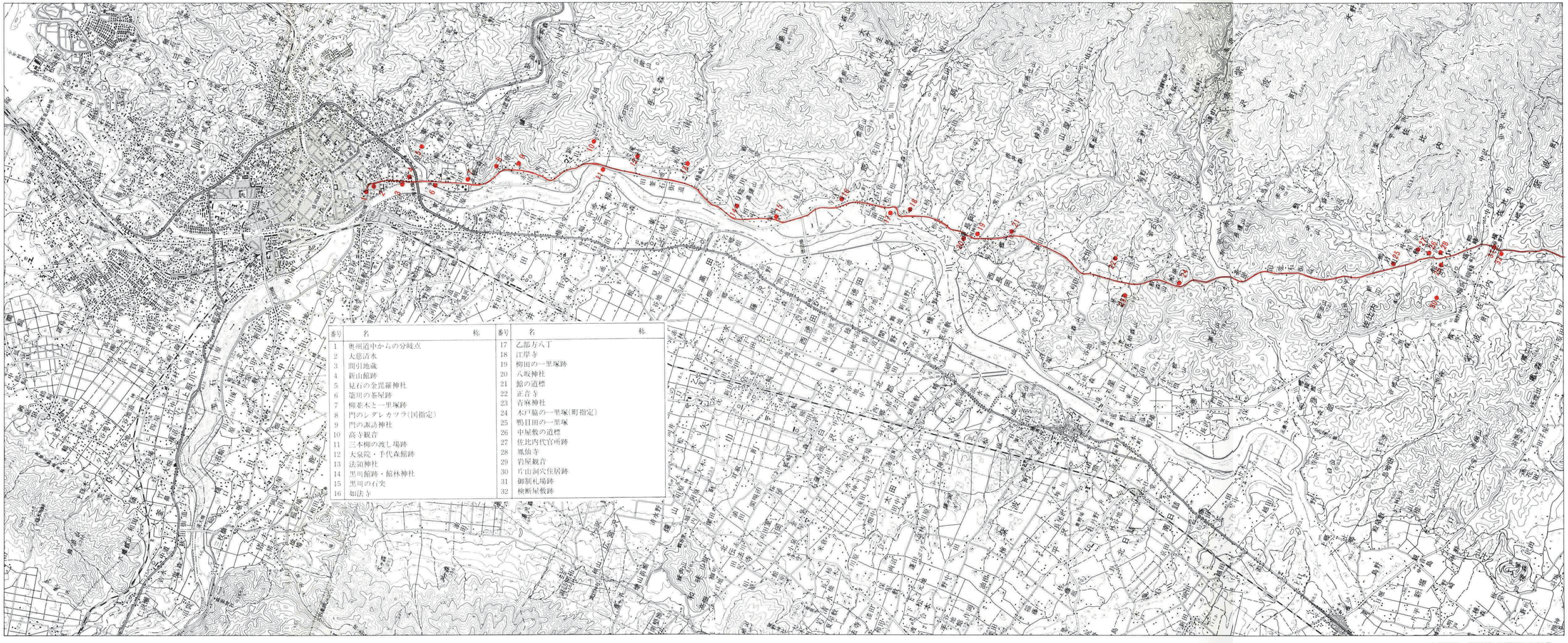


21 釜石市　仙人峠から大橋へ



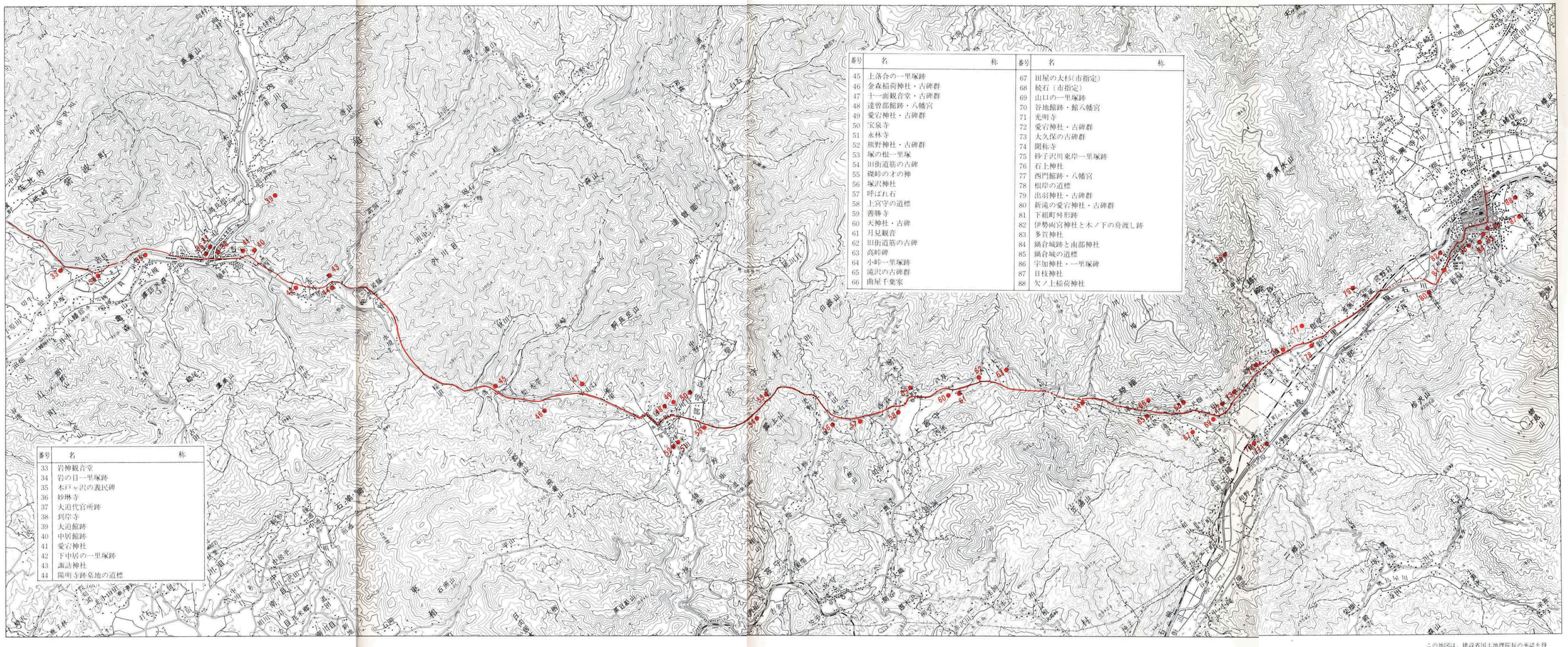
22 釜石市　甲子町の状況

街道筋に残る文化財「遠野街道」



番号	名称	番号	名称
1	奥州道中からの分岐点	17	乙部方八丁
2	大慈清水	18	江岸寺
3	間引地蔵	19	柳田の一里塚跡
4	新山館跡	20	八坂神社
5	見石の金毘羅神社	21	館の道標
6	瑞川の茶屋跡	22	正音寺
7	柳並木と一里塚跡	23	青麻神社
8	門のシダレカツラ(国指定)	24	本戸脇の一里塚(町指定)
9	門の諏訪神社	25	鴨目田の一里塚
10	高寺観音	26	中屋敷の道標
11	三本柳の渡し場跡	27	佐比内代官所跡
12	大泉院・手代森館跡	28	風仙寺
13	法領神社	29	若屋観音
14	黒川館跡・館林神社	30	片山洞穴住居跡
15	黒川の石突	31	御制札場跡
16	如法寺	32	検断屋敷跡

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。
(承認番号)平成56総複第77号



番号	名称
33	岩神観音堂
34	岩の目一里塚跡
35	木戸ヶ沢の義民碑
36	妙琳寺
37	大迫代官所跡
38	到岸寺
39	大迫館跡
40	中居館跡
41	愛宕神社
42	下中居の一里塚跡
43	諏訪神社
44	陽明寺跡墓地の道標

番号	名称	番号	名称
45	上落合の一里塚跡	67	田屋の大杉(市指定)
46	金森稲荷神社・古碑群	68	続石（市指定）
47	十一面観音堂・古碑群	69	山口の一里塚跡
48	達曽部館跡・八幡宮	70	谷地館跡・館八幡宮
49	愛宕神社・古碑群	71	光明寺
50	宝泉寺	72	愛宕神社・古碑群
51	永林寺	73	大久保の古碑群
52	熊野神社・古碑群	74	開称寺
53	塚の根一里塚	75	砂子沢川東岸一里塚跡
54	旧街道筋の古碑	76	石上神社
55	蝶峠のオの神	77	西門館跡・八幡宮
56	塚沢神社	78	根岸の道標
57	呼ばれ石	79	出羽神社・古碑群
58	上宮守の道標	80	新滝の愛宕神社・古碑群
59	善勝寺	81	下組町舛形跡
60	天神社・古碑	82	伊勢両宮神社と木ノ下の舟渡し跡
61	月見観音	83	多賀神社
62	旧街道筋の古碑	84	鍋倉城跡と南部神社
63	高峠碑	85	鍋倉城の道標
64	小峠一里塚跡	86	宇加神社・一里塚碑
65	滝沢の古碑群	87	日枝神社
66	曲屋千葉家	88	欠ノ上稲荷神社

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分の１地形図を複製したものである。
（承認番号 平成56総複第77号

街道筋に残る文化財「大槌街道」

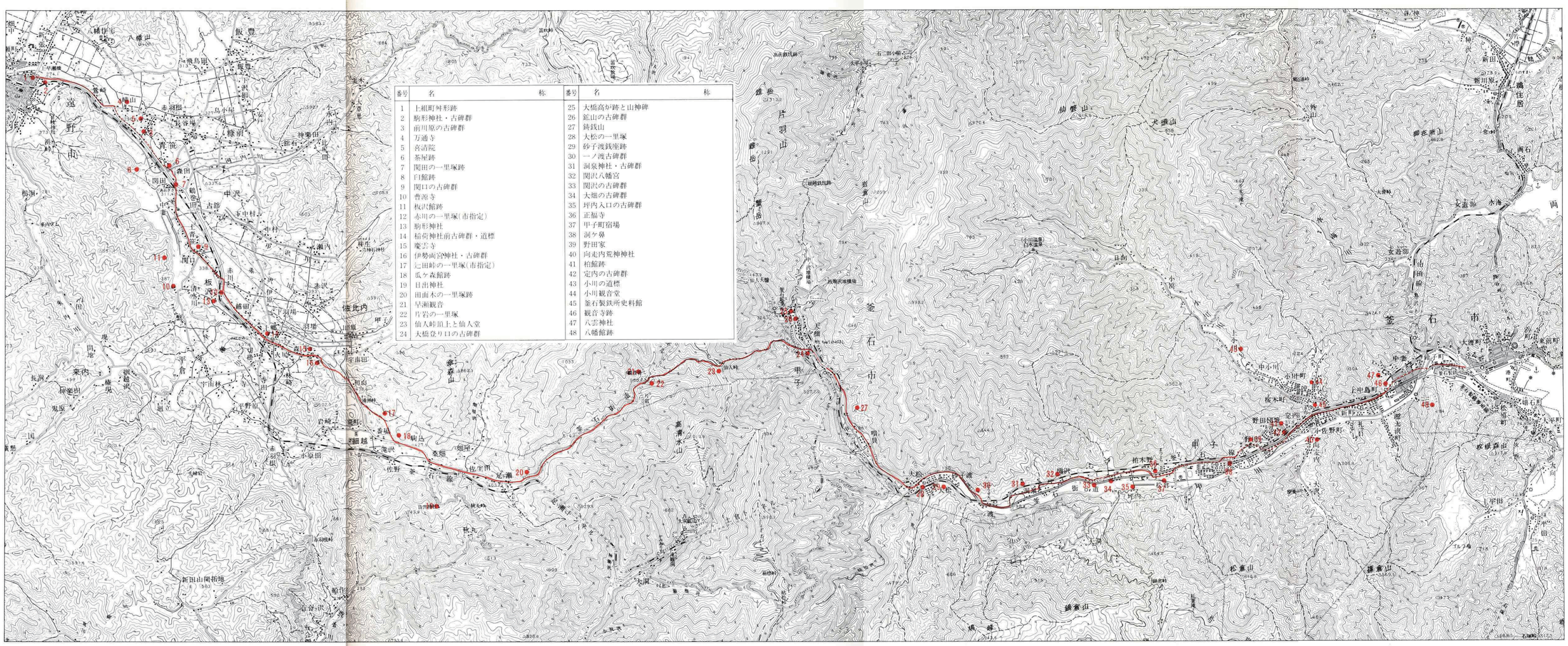
番号	名称	番号	名称
1	上組町舛形跡	18	大洞の一里塚跡
2	新張の古碑群跡	19	旅籠跡
3	加茂神社	20	和山のシナノキ(市指定)
4	遠野八幡宮	21	ひらくすの愛宕神社
5	五日市館跡・倭文神社	22	旧街道筋古碑
6	谷地の道標	23	上台の火見櫓と古碑
7	似田貝の一里塚跡	24	砂場の滝の子神社
8	早池峰参道古道跡・古碑群	25	芳形の茶屋跡・児島大梅の句碑
9	菊池家住宅(重要文化財)	26	ようくらの三峰山大権現碑
10	八幡沢館跡	27	種戸川目の一里塚跡
11	常堅寺	28	札場の古碑群・道標
12	阿部屋敷(安倍館)跡	29	中渡の地蔵尊
13	本宿の古碑群(1)	30	蔵打直の古碑群
14	本宿の古碑群(2)	31	下塚の一里塚
15	野崎の古碑群	32	小槌橋付近の古碑群
16	角城館跡	33	大槌代官所跡
17	旧栃内道古碑群・道標		

街道筋に残る文化財「笛吹峠道」

番号	名称
1	笛吹峠頂上
2	橋野高炉跡(国指定)
3	熊野神社
4	林宗寺
5	小枝街道への分岐点の道標
6	古里の御神楽杉(市指定)
7	横内の古碑群
8	鞭牛隠居屋敷跡・古碑群
9	滝沢神社
10	鞭牛道普請供養碑
11	布引観音奥宮への参道開削碑
12	板橋の古碑群
13	三浦命助生家と布引観音堂
14	明神かつら(市指定)
15	砂子掛銭座跡(市指定)

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。
(承認番号)昭56総複第77号

街道筋に残る文化財「釜石街道」



番号	名称	番号	名称
1	上組町舟形跡	25	大橋高炉跡と山神碑
2	駒形神社・古碑群	26	鉱山の古碑群
3	前川原の古碑群	27	鋳銭山
4	万通寺	28	大松の一里塚
5	喜清院	29	砂子渡銭座跡
6	茶屋跡	30	一ノ渡古碑群
7	関田の一里塚跡	31	洞泉神社・古碑群
8	臼館跡	32	関沢八幡宮
9	関口の古碑群	33	関沢の古碑群
10	曹源寺	34	大畑の古碑群
11	板沢館跡	35	坪内入口の古碑群
12	赤川の一里塚(市指定)	36	正福寺
13	駒形神社	37	甲子町宿場
14	稲荷神社前古碑群・道標	38	洞ケ鼻
15	慶雲寺	39	野田家
16	伊勢両宮神社・古碑群	40	向走内荒神神社
17	辺田峠の一里塚(市指定)	41	柏館跡
18	瓜ケ森館跡	42	定内の古碑群
19	日出神社	43	小川の道標
20	田面木の一里塚跡	44	小川観音堂
21	早瀬観音	45	釜石製鉄所史料館
22	片岩の一里塚	46	観音寺跡
23	仙人峠頂上上仙人堂	47	八雲神社
24	大橋登り口の古碑群	48	八幡館跡

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分の１地形図を複製したものである。
（承認番号）昭56総複第77号

岩手県文化財調査報告書　第六十四集
大槌・釜石街道
昭和五十六年三月三十一日　発行
編集　岩手県教育委員会事務局文化課
発行　岩手県教育委員会
印刷　川口印刷工業株式会社